

SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー

プロダクトノート

ORACLE®

Part No: E49742-04
2014 年 12 月

Copyright © 2013, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	11
最新情報	13
プロダクトノートの使用法	13
ハードウェア	14
プリインストールされているソフトウェア	14
SPARC M6-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェア の最小バージョン	15
SPARC M5-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェア の最小バージョン	16
Oracle VM Server for SPARC のガイドライン	16
必須の OS パッチおよびパッケージ更新	17
Oracle Solaris 11 OS のパッケージ更新	17
Oracle Solaris 10 OS のパッチ	18
SPARC M6-32 サーバーシステムファームウェアのアップグレード	20
SPARC M5-32 サーバーのアップグレード	20
既知の問題	21
一般的な既知の問題	21
メモリー構成	22
SP ステータス LED	22
Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと PCIe スロット 8	22
PDomain あたりの Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと CMU	23
PDomain あたりの SSD ドライブと CMU	23
新しく割り当てられた PDomain に CPU を追加する	23
rKVMS ビデオリダイレクション	24
使用できないシステムのリセット	24
バージョン 9.0.2 へのシステムファームウェアのアップグレード	25
バージョン 9.1.0 へのシステムファームウェアのアップグレード	25
検証ブートのサポート	26
EFI GPT ディスクラベルのサポート	26
cpu_summary プロパティの値が不完全	26
SNMP storageMIB クエリーでのディスクの欠落	27

電源管理が機能不全	27
直接 I/O の既知の問題	28
システムがハイパーバイザコールから明示的に Sigabrt を送信する (16198869)	28
Oracle ILOM の既知の問題	29
システムファームウェア 9.0.2 へのダウングレード後、ブートに失敗する (17363199)	30
PCIe の障害が保守不能と報告され修復できない (17317884)	31
SLINK UE からの回復の断続的な失敗 (17290820)	31
/usr/local から /persist へのファイルのコピー時間が変動する (17222269)	34
ファームウェアのアップグレードおよび SPP フェイルオーバー後にホストを 起動できない (17191941)	35
/HOST0 に DCU が割り当てられていない場合、reset /System が失敗 する (17020066)	35
fmadm faulty コマンドで重複したサスペクトが表示される (16996677)	36
SPP の MAC アドレスがデフォルトにリセットされる (16711562)	36
SP の管理でテーブルが想定どおりに表示されない (16607793)	37
PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)	39
PDomain-SPP のフェイルオーバー後に usbEthernet を回復する方法 を記載する必要がある (16370459)	39
0 より大きい拡張不可 DCU 番号の IOS 番号がゼロから始まる (16103395)	40
ACTIVE_SP 浮動 IP アドレスが機能するためには SP0 および SP1 の物 理 IP アドレスが必要 (16032825)	40
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST にプロパティ bootfailrecovery がない (15898296)	41
Oracle ILOM が EMS ホットプラグイベントを逆順に報告する (15822281)	41
エラーメッセージ「WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@8/usb@0/ hub@5 (hubd0): Connecting device on port 0 failed」 (15799824)	42
Oracle Solaris の既知の問題	42
OS の更新で解決される Oracle Solaris の問題	44
statvfs が 32T バイトメモリー構成で失敗する (17362334)	44
300 秒クロックが動作しなかったあとのデッドマンタイムアウト (17284789)	45
drand48 ルーチンが終了しない (17169064)	45
インストール後のスクリプトを実行すると Oracle Solaris がパニックにな る (17157261)	46
プライマリドメインのリブート後、I/O ドメインが移行状態になる (17020481)	46
PCI_IOV_SDIO_GROUP バージョン 2.1 をサポートするには Oracle Solaris px ドライバが必要 (16739540)	47

SPARC M シリーズ CPU の倍率が識別されない (16713667)	47
デュアルパスディスクの LED ステータスの制御サポート (16458281)	48
ホットプラグで電源を切断し PCIe カードを有効にするとハングアップする (16456762)	48
リブートループ中に NULL ポインタ間接参照が原因でホストが <code>genunix</code> にパニックを起こす (16432520)	48
SDIO または SRIOV ドメインの <code>ldm unbind</code> がハングアップ (16426940)	49
CPU 電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが劇的に低下す ることがある (16355418)	49
最初の実行後に Matrox デバイスの ROM マッピングエラーが発生する (16245956)	50
<code>panic: mpo_cpu_add: cannot read MD</code> (16238762)	51
M5-32 の最大 CPU 構成のシステムで <code>cpustat</code> テストが <code>cpustat:</code> <code>no memory available</code> となって失敗する (16219284)	51
アクティブ <code>mempm</code> は Kcage 割り当てをすべての <code>mnode</code> に分散する必 要がある (15944881)	52
DI を有効にするときに <code>ilomconfig</code> がときどき「Internal error」を返 す (15823485)	53
使用可能な論理ドメインの CPU の動的再構成によってパニックが発生 する (15823255)	53
カーネル警告 <code>px0: px_ib_intr_dist_en</code> (15812773)	54
<code>libldom/ldom_xmpp_client.c</code> のファイル記述子のリーク (15811297)	55
実際のマウスポインタとリモートウィンドウ上のカーソルがずれる (15798251)	55
ハードウェアの既知の問題	58
SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問 題	58
SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問題	60
ドキュメントの既知の問題	62
複数ディスプレイはサポートされていない	62
システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題	63
解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.2)	63
解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.2)	64
障害によって SSB の電源が切断されると、CMU に障害が発生する (17271667)	64
クロックボードが故障すると、クロックボードとすべての SSB に障害が発生 する (17032002)	64
システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題	67
解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.1)	67
解決される一般的な問題 (FW 9.1.1)	68

使用できないシステムのリセット	68
電源管理が機能不全	69
解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.1)	70
不明なベンダー ID 0x55 により M6 POST でファンに障害が発生する	71
ピンスペアリング時に bad_chip_reg に誤った値が書き込まれる (17861184)	71
一部のプロパティで Tab キーによるオートコンプリートが行われない (17298297)	72
ドメイン電力割り当てページに表示される割り当て電力の合計が正しくない (17290213)	72
ポッドは、ドメインの回復前にリモートポッドが準備できていることを確認すべきである (17278718)	73
Oracle ILOM が同じ DCU 内での CPU の混在について断続的に報告する (17271326)	74
Oracle ILOM が報告する available_power プロパティの値が正しくない (17259357)	74
共有コアのコア再マップ後の PAD のパフォーマンス低下 (17258806)	75
ereport.chassis.post.mem.test-fail@BOB による誤診の生成 (17237954)	76
reset /System で競合するメッセージが表示される (17031933)	76
SNMP entityMIB で HDD 情報が表示されない (16948916)	77
/HOST0 の PDomain-SPP で /HOST/VPS にサブターゲットがない (16943065)	78
電源投入時にスタンバイ状態のキースイッチがホストの電源を切断する (16908349)	78
ファームウェアのアップグレード後、Oracle ILOM が SNMP エラーを報告する (16679878)	80
電源サイクル後に AC 入力障害がクリアされない (16589814)	80
解決される Oracle Solaris の問題 (FW 9.1.1)	82
ldmpower コマンドで間違った消費電力が報告される (17328848)	82
 システムファームウェア 9.1.0 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)	85
解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.0)	85
解決される一般的な問題 (FW 9.1.0)	86
ファームウェアアップグレードがプロセッサ電源管理に影響する	86
解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.0)	87
TPM ハードウェアエラー (17343217)	87
アップグレードしたファームウェアが電源の入っているホストに伝播する (17324447)	88
ライブファームウェアアップグレードおよび reset /System コマンドの実行後にホストがハングアップする (17308087)	88

start /System コマンドの発行時に、Internal error メッセージが表示される (17294574)	89
/HOST0 に DCU がいない場合、ホストの operation_in_progress プロパティがリセット状態のまま変わらない (17291912)	90
LFESR がゼロの場合、BX ereport (エラーレポート) が生成される (17279121)	91
ホストのリセット後の電源投入時での致命的な構成エラー (17221526)	91
Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に SP0 がプライマリブートストラップでハングアップ (15812783)	92
 システムファームウェア 9.0.2 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)	
SPARC M5-32 サーバーの直接 I/O 機能	95
解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.0.2)	96
解決される一般的な問題 (FW 9.0.2)	98
/System/Open_Problems リストに現在の状態が反映されない	98
Oracle ILOM Web インタフェースでプロパティに「UNKNOWN」または「Not Available」が表示される	99
解決される直接 I/O の問題 (FW 9.0.2)	100
検証中にゲストドメインを停止すると、無効なバーが消えずに残る (16674100)	100
堅牢な SPARC M5-32 SDIO 構成の SDIO ドメインが OpenBoot PROM プロンプトに到達しない (16173883)	101
iov で貸し出されたデバイスが無効になっているとき、ゲストドメインをブートできない (16098592)	102
解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.0.2)	103
実行中のファームウェアのアップグレード後にホスト再構成が失敗する (16929532)	104
電源の停止によってサーバーの再起動ができなくなることがある (16667457)	105
PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)	106
「FATAL: Mutex time-out: Lock on I2C Bus Held by Node 0」のため起動が失敗する (16493074)	106
DCU1 が割り当てられていないとき、SPP1 が PDomain-SPP として識別される (16449509)	108
start /SYS フローにより、DCU _x 、CMU _x 、および SPP _x に対して「Failed to start」メッセージが表示される (16441405)	110
DIMM の障害が自動修復されない (16369763)	111
/SYS/FOPNL0 の FRU 情報を出力できない (16291774)	112
SPP のサポートされていないページへのリンクを削除する (16287294)	112
アクティブ SP で KVMS ホストロック設定が正しく表示されない (16287241)	113

アクティブ SP で ipmitool 電源コマンドが動作しない (16270561)	113
同じ名前を持つ複数の論理ドメイン構成ファイルが存在する場合、Oracle ILOM が混乱する (16239544)	114
全点灯 (ALO) テストが機能しない (16239056)	114
標高に基づくセンサーしきい値の動的変更とフェイルオーバー (16238150)	115
ロケータボタンを押すと緑色の OK LED が低速の点滅から高速の点滅 に変わる (16224893)	115
set /System action で「Internal error」が表示される (16218833)	116
Oracle ILOM の電力上限機能は、調整更新を /SYS/VPS の更新と同 期させる必要がある (16205895)	116
autorunonerror=none の場合、start -f /Servers/PDomains/ PDomain_X/HOST の電源投入失敗から回復できない (16187909)	117
ハイパーバイザは、PCIe ホットプラグによって追加されたカードの PCIe 情報を Oracle ILOM に通知する必要がある (16081398)	118
ファームウェアのアップグレード後に空の fault.replay イベントが memlink-failover、c2c-lane-fail で表示される (16081138)	118
/conf/webgo.conf は SPP にレプリケートされる必要がある (16063607)	119
読み取り障害時にハイパーバイザがデバイスタイプを誤って読み取るた め、親バスが検出されない (16062459)	119
/Servers/.../SP/powermgmt/powerconf/ の下に PSU と SP が一 覧表示されない (16059956)	119
SSB プログラミングが完了したあとの、障害のある SSB のシステムエラー 処理 (16019636)	120
電源装置で電圧低下が断続的に検出される (16018902)	122
Oracle ILOM がアドイン PCI カードデータをハイパーバイザに再送信す るよう要求する (15936115)	122
start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST で障害が報告される が、ホストは正常にブートする (15834247)	124
/SYS/SP0 のホットリムーブ中に SYSID0 デバイスが削除される (15826549)	124
CLI で PDomain-SPP を設定しても gm に伝播されない (15823776)	125
Oracle ILOM が物理キースイッチの Diag 位置または Service 位置を 読み取らない (15816819)	127
Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に SP0 がプライマリブートス ラップでハングアップ (15812783)	128
遅延転送が実行されなかった (15795683)	129
Emulex rKVMS が SPARC クライアントからのストレージリダイレクショ ンをサポートしていない (15795058)	129
解決される POST の問題 (FW 9.0.2)	130
POST 時に断続的な fault.cpu.generic-sparc.core 障害が発生 する (16707144)	130

/SP/diag trigger を複合値に設定できない (16211935)	130
COU1 の MBIST 障害の障害イベントが表示されない (16172211)	131
解決される Oracle Solaris の問題 (FW 9.0.2)	131
Oracle Solaris FMA (fault または defect).sunos.eft.unexpected_telemetry は診断されるべきでは なかった (15820471)	132

このドキュメントの使用方法

このドキュメントには、Oracle の SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する最新情報が記載されています。このドキュメントは、類似の製品の操作について高度な経験を持つ、技術者、システム管理者、および承認サービスプロバイダを対象としています。

- [11 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [11 ページの「フィードバック」](#)
- [12 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー	http://www.oracle.com/goto/M5-32/docs http://www.oracle.com/goto/M6-32/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Solaris 11 OS	http://www.oracle.com/goto/Solaris11/docs
Oracle VM Server for SPARC	http://www.oracle.com/goto/VM-SPARC/docs
Oracle VTS	http://www.oracle.com/goto/VTS/docs
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

最新情報

このセクションには、SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバーに関する最新情報が記載されています。

- [13 ページの「プロダクトノートの使用法」](#)
- [14 ページの「ハードウェア」](#)
- [14 ページの「プリインストールされているソフトウェア」](#)
- [15 ページの「SPARC M6-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェアの最小バージョン」](#)
- [16 ページの「SPARC M5-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェアの最小バージョン」](#)
- [16 ページの「Oracle VM Server for SPARC のガイドライン」](#)
- [17 ページの「必須の OS パッチおよびパッケージ更新」](#)
- [20 ページの「SPARC M6-32 サーバーシステムファームウェアのアップグレード」](#)
- [20 ページの「SPARC M5-32 サーバーのアップグレード」](#)

プロダクトノートの使用法

次の表を使用して、サーバーおよびインストールされているシステムファームウェアに従って、これらのノートのどの章が関連しているか判断してください。

サーバーとインストールされているシステムファームウェア	関連情報が記載された章
SPARC M6-32, FW 9.1.2	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」
SPARC M5-32, FW 9.1.2	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」
SPARC M6-32, FW 9.1.1	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」
SPARC M5-32, FW 9.1.1	■ 「最新情報」

サーバーとインストールされているシステムファームウェア	関連情報が記載された章
	■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」
SPARC M6-32, FW 9.1.0	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題」
SPARC M5-32, FW 9.1.0	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題」
SPARC M5-32, FW 9.0.2	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.0 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)」
SPARC M5-32, FW 9.0.1	■ 「最新情報」 ■ 「既知の問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題」 ■ 「システムファームウェア 9.1.0 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)」 ■ 「システムファームウェア 9.0.2 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)」

ハードウェア

現在、Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードのホットプラグはサポートされるようになりました。関連情報については、[22 ページの「Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと PCIe スロット 8」](#)を参照してください。

プリインストールされているソフトウェア

ソフトウェア	場所	説明
Oracle Solaris 11.1 OS	OS は ZFS ファイルシステムを使用してドライブ 0 にインストールされています。	ホスト OS。

ソフトウェア	場所	説明
		必須のパッケージ更新およびパッチはプリインストールされていない場合があります。サーバーを本稼働で使用する前に、必ずすべての必須パッチ更新を入手してインストールしてください。 17 ページの「必須の OS パッチおよびパッケージ更新」 を参照してください。
Oracle VM Server for SPARC	/opt/SUNWldm	論理ドメインを管理します。
Oracle VTS	/usr/sunvts	ハードウェアの検証テストを提供します。

プリインストールされている OS は、サーバーにはじめて電源を投入したあと、適切な時点で構成できます。

プリインストールされている OS でパッケージ更新が必要かどうかを確認するには、[17 ページの「必須の OS パッチおよびパッケージ更新」](#)を参照してください。

プリインストールされている OS を使用する代わりに、OS を再インストールして、パッチをインストールできます。[16 ページの「SPARC M5-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェアの最小バージョン」](#)を参照してください。

Oracle Solaris OS のインストールおよび構成の手順については Oracle Solaris のドキュメントを参照してください。

SPARC M6-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェアの最小バージョン

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
システムファームウェア	9.1.0 Oracle ILOM 3.2.1.5 を含みます
Oracle Solaris 11 OS	Oracle Solaris 11.1 SRU 10 次のソフトウェアコンポーネントが含まれます。 ■ Oracle VM Server for SPARC 3.1.0.0 ■ Oracle VTS 7.0 PS 17 注記 - SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバーのゲストドメインに推奨される OS は Solaris 11 です。Oracle Solaris 11 は、簡単なインストールと保守、強化された仮想化機能、およびパフォーマンスの向上を実現します。
Oracle Solaris 10 OS (非制御ドメインのみ)	Oracle Solaris 10 9/10 OS とパッチおよび 2 つのパッケージ。

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
	注記 - Oracle Solaris 10 9/10 OS または Oracle Solaris 10 8/11 OS の以前のインストールにパッチを適用する場合は、サーバーを本稼働で使用する前に、18 ページの「Oracle Solaris 10 OS のパッチ」に示されているすべてのパッチとパッケージ (Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルも含む) をインストールする必要があります。

SPARC M5-32 サーバーでサポートされているファームウェア、OS、ソフトウェアの最小バージョン

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
システムファームウェア	9.0.1 Oracle ILOM 3.2.1.3.b を含みます。
Oracle Solaris 11 OS	Oracle Solaris 11.1 SRU 4 次のソフトウェアコンポーネントが含まれます。 ■ Oracle VM Server for SPARC 3.0.0.2 ■ Oracle Electronic Prognostics ■ Oracle VTS 7.0 PS 15 注記 - SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバーのゲストドメインに推奨される OS は Solaris 11 です。Oracle Solaris 11 は、簡単なインストールと保守、強化された仮想化機能、およびパフォーマンスの向上を実現します。
Oracle Solaris 10 OS (非制御ドメインのみ)	Oracle Solaris 10 9/10 OS とパッチおよび 2 つのパッケージ。 注記 - Oracle Solaris 10 9/10 OS または Oracle Solaris 10 8/11 OS の以前のインストールにパッチを適用する場合は、サーバーを本稼働で使用する前に、18 ページの「Oracle Solaris 10 OS のパッチ」に示されているすべてのパッチとパッケージ (Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルも含む) をインストールする必要があります。

Oracle VM Server for SPARC のガイドライン

このサーバーに Oracle VM Server for SPARC を構成する予定の場合は、次のガイドラインに従ってください。

- Oracle Solaris 10 OS を制御ドメインで構成しないでください。
- Oracle Solaris 10 OS と必須のパッチおよびパッケージは、ゲスト、I/O、ルート、およびサービスドメインで構成できます。
- 1 つのゲストドメインに含まれる Oracle Solaris 10 と必須のパッチおよびパッケージのインスタンスは、1024 個の仮想 CPU および 4T バイトのメモリーに制限されます。

物理ドメインのメモリの大部分は、論理ドメインに割り当てることができます。ただし、PDomain のメモリのごく一部は、ソフトウェアコンポーネント、ハイパーバイザ、および特定の I/O デバイスに事前に割り当てられています。論理ドメインで使用できないメモリの部分を特定するには、PDomain にログインして、次のコマンドを入力します。

```
# ldm ls-devices -a mem
```

コマンド出力の「Bound」列で、_sys_ を含む行を見つけます。これらのメモリ部分は論理ドメインで使用できません。

必須のパッチおよびパッケージについては、[18 ページの「Oracle Solaris 10 OS のパッチ」](#)を参照してください。

必須の OS パッチおよびパッケージ更新

プリインストールされている OS を使用する場合、またはサーバーに OS を再インストールする場合は、サーバーを本稼働で使用する前に、特定のパッチまたはパッケージ更新のインストールが必要になることがあります。

注記 - Oracle Solaris 11 OS は、パッチの代わりにパッケージ更新を使用します。

Oracle Solaris 11 OS のパッケージ更新

入手可能になっている場合は、Oracle Solaris 11.1 Support Repository Update (SRU) をインストールします。これにより、サーバーには最新のソフトウェアが存在し、最善のパフォーマンス、安全性、安定性が確保されます。

現時点で、Oracle Solaris 11.1 OS をこのサーバーで使用するために必要な個別のパッケージ更新はありません。

サーバーに現在インストールされている SRU を表示するには、`pkg info entire` コマンドを使用します。

`pkg` コマンドまたはパッケージマネージャーの GUI を使用して、<https://pkg.oracle.com/solaris/support> から入手可能な SRU をダウンロードします。

注記 - Oracle Solaris 11 パッケージ更新リポジトリにアクセスするには、必要な SSL 証明書とサポート鍵をインストールするための Oracle サポート契約が必要です。<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html> にある記事を参照してください。Oracle の証明書要求 Web サイト <https://pkg-register.oracle.com> にアクセスしてください。

Oracle Solaris 10 OS のパッチ

注記 - オプションのハードウェアおよびソフトウェアに必要なパッチおよび更新に関する最新情報については、各製品のドキュメントを参照してください。

表 1 Oracle Solaris 10 1/13 OS の必須のパッチ

インストール順序	OS、パッチ、またはパッケージ
1	Oracle Solaris 10 1/13 OS。
2	次の必須パッチ: ■ 148322-07 ■ 148324-06 ■ 148888-03 ■ 149638-01 ■ 149644-01 ■ 150025-01 ■ 150027-01 ■ 150107-01 ■ 150110-01

表 2 Oracle Solaris 10 8/11 OS の必須のパッチ

インストール順序	OS、パッチ、またはパッケージ
1	Oracle Solaris 10 8/11 OS。 注記 - Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルがインストールされるまでは、Oracle Solaris 10 8/11 OS では 512 個の CPU と 3840G バイトのメモリーだけがサポートされます。これらのリソースを超えているサーバーの場合は、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルがインストールされるまでリソースを減らすか、より新しいバージョンの Oracle Solaris OS をインストールしてください。
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル。
3	次の必須パッチ:

インストール順序	OS、パッチ、またはパッケージ
	■ 148322-07 ■ 148324-06 ■ 148888-03 ■ 149638-01 ■ 149644-01 ■ 150025-01 ■ 150027-01 ■ 150107-01 ■ 150110-01
	注記 - Oracle Solaris 10 OS の実行中にこのバグが発生することがありますが、パッチのインストールに影響はありません。15665037 snmpXdmid DMI 登録失敗のエラーが Oracle Solaris のブートのあとに報告されます。

表 3 Oracle Solaris 10 9/10 OS の必須のパッチ

インストール順序	OS、パッチ、またはパッケージ
1	Oracle Solaris 10 9/10 OS。 注記 - Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルがインストールされるまでは、Oracle Solaris 10 9/10 OS では 512 個の CPU と 1023G バイトのメモリだけがサポートされます。これらのリソースを超えているサーバーの場合は、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルがインストールされるまでリソースを減らすか、より新しいバージョンの Oracle Solaris OS をインストールしてください。 注記 - 次の問題が発生することがありますが、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールすることによって解決されます。15712380 S10U10 でジャンプ中に「WARNING Unrecognized token: XXX」が報告されます。15704520 Oracle Solaris 10U10 sun4v prttdiag で 2.5 GHz CPU 周波数が誤って報告されます。
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル。
3	次の必須パッチ: ■ 148322-07 ■ 148324-06 ■ 148888-03 ■ 149638-01 ■ 149644-01 ■ 150025-01 ■ 150027-01 ■ 150107-01 ■ 150110-01 注記 - Oracle Solaris 10 OS の実行中にこのバグが発生することがありますが、パッチのインストールに影響はありません。15665037 snmpXdmid DMI 登録失敗のエラーが Oracle Solaris のブートのあとに報告されます。
4	pkgadd コマンドを使用して SUNWust1 および SUNWust2 パッケージをインストールします。

SPARC M6-32 サーバースystemファームウェアのアップグレード

SPARC M6-32 サーバ内 M6 プロセッサおよびシステムファームウェアバージョン 9.1.0.x に、バージョン 9.1.1.a 以降への必須システムファームウェアのアップグレードを必要とする問題が検出されました。ファームウェアは次からダウンロードできます。

<http://support.oracle.com>

ファームウェアのアップグレードの手順は、ダウンロードと、次から入手可能な『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバ管理ガイド』で説明されています。

http://docs.oracle.com/cd/E24355_01

Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

注記 - システムファームウェアのアップグレードは、SPARC M6-32 サーバにのみ必要です。SPARC M5-32 サーバは、M5 プロセッサのみで構成されている場合、このアップグレードを必要としません。

SPARC M5-32 サーバのアップグレード

次のコンポーネントで SPARC M5-32 サーバをアップグレードできます。

- **SPARC M6 Xoption CMU** - 処理能力を高めます。
- **デュアルシンセサイザークロックボード** - 信頼性を高めます。

注記 - 機能と互換性の確保のため、アップグレード (特に SPARC M6 Xoption CMU) をインストールする前に、SPARC M5-32 サーバースystemファームウェアをバージョン 9.1.1.a 以降にアップグレードする必要があります。

手順とシステムファームウェアのダウンロードについては、<http://support.oracle.com> で入手可能な *SPARC M5-32 Servers: Firmware Image Software Version Matrix Information (Doc ID 1540816.1)* を参照してください。

コンポーネントの取り付けと保守については、『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバサービスマニュアル』を参照してください。システムファームウェアのアップグレードについては、『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバ管理ガイド』を参照してください。

既知の問題

このセクションでは、サーバーの既知の問題について説明します。

- [21 ページの「一般的な既知の問題」](#)
- [28 ページの「直接 I/O の既知の問題」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM の既知の問題」](#)
- [42 ページの「Oracle Solaris の既知の問題」](#)
- [58 ページの「ハードウェアの既知の問題」](#)
- [62 ページの「ドキュメントの既知の問題」](#)

一般的な既知の問題

次の問題が、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する一般的な既知の問題です。

- [22 ページの「メモリー構成」](#)
- [22 ページの「SP ステータス LED」](#)
- [22 ページの「Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと PCIe スロット 8」](#)
- [23 ページの「PDomain あたりの Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと CMU」](#)
- [23 ページの「PDomain あたりの SSD ドライブと CMU」](#)
- [23 ページの「新しく割り当てられた PDomain に CPU を追加する」](#)
- [24 ページの「rKVMS ビデオリダイレクション」](#)
- [24 ページの「使用できないシステムのリセット」](#)
- [25 ページの「バージョン 9.0.2 へのシステムファームウェアのアップグレード」](#)
- [25 ページの「バージョン 9.1.0 へのシステムファームウェアのアップグレード」](#)
- [26 ページの「検証ブートのサポート」](#)
- [26 ページの「EFI GPT ディスクラベルのサポート」](#)
- [26 ページの「cpu_summary プロパティの値が不完全」](#)

- 27 ページの「SNMP storageMIB クエリーでのディスクの欠落」
- 27 ページの「電源管理が機能不全」

メモリー構成

4 分の 1 および半分搭載のメモリー構成がサポートされます。完全搭載のメモリー構成は、パッチ 168 によるシステムファームウェアの更新が必要です。このパッチは、次からダウンロードできます。

<http://support.oracle.com>

SP ステータス LED

この表では、サーバーシャーシの前面および背面にある緑色の SP LED およびオレンジ色の SP 障害 LED の動作について説明します。

注記 - 緑色の LED の点灯は、オレンジ色の LED から独立しています。

インジケータ	色	状態
SP	緑色	オフ - 電源が SP に供給されていません。
		オン - SP がサーバーをモニタリングしています。
SP 障害	オレンジ色	オフ - 障害は検出されていません。
		オン - 障害が検出されています。

Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと PCIe スロット 8

8 PCIe3 x8 というラベルが付いた IOU スロットに Sun Flash Accelerator F40 または F80 カードを取り付けしないでください。これらのスロットの通気はほかの PCIe スロットより悪く、推奨されているすべての動作条件下のこれらの特定のカードを十分に冷却しない可能性があります。これらのカードがこれらのスロットで検出された場合、サーバーとこれらのカードは動作しますが、サーバーによって障害が生成されます。これらのカードは、PCIe スロット 8 を除く IOU の PCIe スロットに取り付けてください。(17709217)

PDomain あたりの Sun Flash Accelerator F40 および F80 PCIe カードと CMU

PDomain に 8 個を超える CMU がある場合、その PDomain 内に Sun Flash Accelerator F40 または F80 PCIe カードを使用して SPARC M6-32 サーバーを構成しないでください。

PDomain の CMU が 8 個以下の場合は、その PDomain 内に合計 15 枚を超える F40、F80、または組み合わせのカードを構成しないでください。(17504831)

PDomain あたりの SSD ドライブと CMU

SSD ドライブを SPARC M6-32 サーバー上の PDomain に構成する場合、その PDomain に 8 個を超える CMU が含まれてはいけません。(17504831)

新しく割り当てられた PDomain に CPU を追加する

『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー管理ガイド』には、PDomain に DCU を割り当てる手順が示されています。現時点では、これらの手順に従い、かつ PDomain に CPU も追加すると、パニックが発生することがあります。51 ページの「[panic: mpo_cpu_add: cannot read MD \(16238762\)](#)」を参照してください。操作を成功させるには、次の手順に従ってください。

注記 - この手順では、システムがインストールされていること、論理ドメインが構成されていること、およびドメインがインストールされていることを前提にしています。

1. PDomain に DCU を割り当てます。

『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー管理ガイド』の「Assign DCUs to a PDomain」または「Migrate DCUs to a New PDomain」のどちらかを実行してください。

2. 現在使用可能なハードウェアを正確に反映していない、古い構成を削除します。

```
# /opt/SUNWldm/bin/ldm remove-spconfig config_name_old
```

ここで、*config_name_old* は古い構成の名前です。

3. 論理ドメインの構成を SP に保存します。

```
# /opt/SUNWldm/bin/ldm add-spconfig config_name_new
```

ここで、*config_name_new* は新しい構成の名前です。

4. 構成が保存されたことを検証します。

```
# /opt/SUNWldm/bin/ldm list-spconfig
```

5. システムをシャットダウンします。

```
# shutdown -i0 -g0 -y
```

6. PDomain をリブートします。

この例では、PDomain_1 をリブートします。

```
-> reset /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST
```

```
Are you sure you want to reset /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST (y/n) ? y
```

```
Resetting /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST
```

```
->
```

7. 構成されたドメインに新しい DCU から CPU を追加します。

『Oracle VM Server for SPARC 3.0 管理ガイド』で CPU の動的再構成の情報を参照してください。

rKVMS ビデオリダイレクション

現時点では、rKVMS ビデオリダイレクションは単一 DCU PDomain 構成でのみサポートされています。(16419614)(16339535)(15968765)

使用できないシステムのリセット

現時点では、Oracle ILOM の `reset /System` コマンドを使用したシステムのリセットは信頼できず、失敗する可能性があります。

別の方法としてすべてのホストをリセットすれば、実質的にシステム全体がリセットされます。

- **Oracle ILOM CLI** での操作 – すべてのホストに対して `reset /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST` コマンドを使用します。ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

- **Oracle ILOM Web インタフェースでの操作** – 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択し、ナビゲーションペインで「Host Management」->「Power Control」をクリックします。「Select Action」ドロップダウンメニューから「Reset」を選択し、「Save」をクリックします。その他の 3 つのドメイン (ホスト) について繰り返します。

パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。(17020066)

バージョン 9.0.2 へのシステムファームウェアのアップグレード

サーバーのシステムファームウェアをバージョン 9.0.2.e または 9.0.2.h にアップグレードする予定の場合は、アップグレードを行う前に、まずホストの電源を切る必要があります。ホストの `power_state` プロパティを表示すると、ホストの電源が切れているかどうかを検証できます。次に例を示します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST (y/n)? y
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST power_state
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties
power_state = Off
->
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー管理ガイド』の記述に従ってアップグレードを実行します。アップグレード後、ホストの電源を入れ直します。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST (y/n)? y
->
```

バージョン 9.1.0 へのシステムファームウェアのアップグレード

システムファームウェア 9.1.0 へのライブアップグレード後、ホストのシャットダウンに続くホストのファームウェアのアップグレードが、以前のシステムファームウェアバージョンよりも数分長くなることがあります。

検証ブートのサポート

検証ブート機能では、Oracle Solaris ブートブロックとカーネルモジュールの検証ポリシーを設定できます。Oracle ILOM CLI と Oracle ILOM Web インタフェースの両方で、検証ブートのブートおよびモジュールポリシーを設定できますが、Oracle Solaris では現在、これらのポリシーをサポートしていません。Oracle Solaris のサポートを利用できるようになるまで、検証ブート機能は構成しないでください。

EFI GPT ディスクラベルのサポート

システムファームウェア 9.1.0 以降では、Extensible Firmware Interface GUID Partition Table (EFI GPT) ディスクラベル機能をサポートしています。これ以前のバージョンのシステムファームウェアでは、EFI GPT ラベルの付いたディスクをブートしようとすると失敗し、ホストコンソールに次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
{9000} ok boot
Bad magic number in disk label
Can't open disk label package
No viable default device found in boot-device variable.
```

EFI GPT ラベルの付いたディスクからのサーバーのブートを可能にするには、システムファームウェアをバージョン 9.1.0 以降に更新してください。

cpu_summary プロパティの値が不完全

DCU または下位の CMU に電源が完全に投入される前に、その DCU で `show /System/DCUs/DCU_x cpu_summary` コマンド (ここで、コマンドの `x` は DCU の番号です) を発行すると、不完全な結果になることがあります。たとえば、DCU2 に 4 つの CMU (8 つの M5 プロセッサ) があり、2 つの CMU に電源が完全に投入される前にコマンドが発行されると、次のような出力が表示されます。

```
-> show /System/DCUs/DCU_2 cpu_summary
/System/DCUs/DCU_2
Properties:
  cpu_summary = Four Oracle SPARC + Four Oracle SPARC M5
->
```

cpu_summary プロパティの予想出力は Eight Oracle SPARC M5 でした。

show /System/DCUs/DCU_x cpu_summary コマンドを発行する前に、DCU と CMU に完全に電源が投入できるようにします。(17178405)(16901647)

SNMP storageMIB クエリーでのディスクの欠落

ディスクがマルチパス構成になっているサーバーでは、1 つ以上のディスクが SNMP クエリーで複数回報告されることがあります。

storageMIB を HMP の一部としてより大きな SNMP フレームワークに統合している場合は、一意のディスクエントリだけが表示されるように、共通のディスク名に基づいて冗長なディスクエントリをフィルタ処理します。(17055364)

電源管理が機能不全

Oracle ILOM CLI と Web インタフェースの両方で、割り当てられた電力の値と使用可能な電力の値が誤って報告されています。そのため、これらの値を使用して、サーバーに電力を供給したり、サーバーまたは PDomain に割り当てられている電力や消費可能な電力を見積もった場合、最終的に予期しない電源切断状況に陥る可能性があります。

PDomain の電力上限に対する違反アクションが緊急電源停止に設定されている場合、PDomain は予期せずに電源が切断されたり、電力の投入が妨げられたりします。(17410897)、(17406513)、(17265225)

違反アクションをデフォルトのなしの値に設定し、電力割り当てを無効にすると、このような予想外の状況を回避できます。これらのタスクは、Oracle ILOM CLI からでも Oracle ILOM Web インタフェースからでも実行できます。

Oracle ILOM CLI の場合:

1. 電力割り当てを無効にします。

```
-> cd /Servers/PDomains/PDomain_x/SP/powermgmt/budget
-> set activation_state=disabled
```

ここで、*x* は影響を受ける PDomain の番号 (0、1、2、または 3) です。

2. 違反アクションをなしに設定します。

```
-> set pendingviolation_actions = none
-> set commitpending=true
```

Oracle ILOM Web インタフェースの場合:

1. 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択します。

2. ナビゲーションペインで「Power Management」->「Limit」をクリックします。
3. 「Power Limiting」チェックボックスのチェックマークを外します。
4. 「Violation Actions」ドロップダウンメニューから「None」を選択します。
5. 「Save」をクリックします。

直接 I/O の既知の問題

注記 - このドキュメントと BugDB の内容の間で整合性を保つため、「静的直接 I/O (SDIO)」という語句を使用して直接 I/O 機能を指します。直接 I/O に関する詳細については、『*Oracle VM Server for SPARC 管理ガイド*』に記載されています。

システムファームウェア 9.0.2 以降にアップグレードしない場合は、単一 DCU PDomain 構成のみが SDIO をサポートします。

これは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する直接 I/O の既知の問題です。

- [28 ページの「システムがハイパーバイザコールから明示的に Sigabrt を送信する \(16198869\)」](#)

システムがハイパーバイザコールから明示的に Sigabrt を送信する (16198869)

svcadm コマンドで ldmd SMF サービスを停止するとき、またはプライマリドメインをシャットダウンまたはリブートするときに、論理ドメインマネージャプロセス ldmd がコアをダンプすることがあります。その結果、`/var/svc/log/ldoms-ldmd:default.log` ファイルに次のようなメッセージが含まれることがあります。

- warning: Bad file number: PRI_WAITGET failed
- warning: Bad file number: Error reading message from the hvctl channel, resetting the channel
- ioctl VLDC_IOCTL_WRITE_PA failed

これらのメッセージは無視して構いません。

回避方法: 回避方法はありません。この問題は、SRU6 で使用可能な Oracle VM Server for SPARC 3.0.0.3 で修正されます。

Oracle ILOM の既知の問題

次の問題が、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する Oracle ILOM の既知の問題です。

- 30 ページの「システムファームウェア 9.0.2 へのダウングレード後、ブートに失敗する (17363199)」
- 31 ページの「PCIe の障害が保守不能と報告され修復できない (17317884)」
- 31 ページの「SLINK UE からの回復の断続的な失敗 (17290820)」
- 34 ページの「/usr/local から /persist へのファイルのコピー時間が変動する (17222269)」
- 35 ページの「ファームウェアのアップグレードおよび SPP フェイルオーバー後にホストを起動できない (17191941)」
- 35 ページの「/HOST0 に DCU が割り当てられていない場合、reset /System が失敗する (17020066)」
- 36 ページの「fmadm faulty コマンドで重複したサスペクトが表示される (16996677)」
- 36 ページの「SPP の MAC アドレスがデフォルトにリセットされる (16711562)」
- 37 ページの「SP の管理でテーブルが想定どおりに表示されない (16607793)」
- 39 ページの「PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)」
- 39 ページの「PDomain-SPP のフェイルオーバー後に usbEthernet を回復する方法を記載する必要がある (16370459)」
- 40 ページの「0 より大きい拡張不可 DCU 番号の IOS 番号がゼロから始まる (16103395)」
- 40 ページの「ACTIVE_SP 浮動 IP アドレスが機能するためには SP0 および SP1 の物理 IP アドレスが必要 (16032825)」
- 41 ページの「/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST にプロパティ bootfailrecovery がない (15898296)」
- 41 ページの「Oracle ILOM が EMS ホットプラグイベントを逆順に報告する (15822281)」
- 42 ページの「エラーメッセージ「WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@8/usb@0/hub@5 (hubd0): Connecting device on port 0 failed」 (15799824)」

システムファームウェア 9.0.2 へのダウングレード後、ブートに失敗する (17363199)

Oracle Solaris およびシステムファームウェアでは、次の 2 つのディスクレベルタイプがサポートされています。

- **SMI** - 2T バイト未満のディスクに従来から使用されている VTOC ラベル。
- **EFI GPT** - Extensible Firmware Interface GUID Partition Table (EFI GPT) は、2T バイト未満のディスク用に EFI を変更したものです。

次の表に、インストールされているシステムファームウェアと Oracle Solaris に応じた、ブート可能ディスクの組み合わせを示します。

システムファームウェアのバージョン	Oracle Solaris 11.1 以降	Oracle Solaris 11.0 以前
9.1.0 以降	EFI GPT ディスクラベル	SMI ディスクラベル
9.0.2 以前	SMI ディスクラベル	SMI ディスクラベル

同時に、この同じ表では、インストールされているシステムファームウェアとインストールする Oracle Solaris に応じて、Oracle Solaris インストーラによってブートディスクに書き込まれるデフォルトのディスクラベルがわかります。

システムファームウェアをバージョン 9.1.0 からバージョン 9.0.2 にダウングレードした場合、Oracle Solaris 11.1 ブートディスクの EFI GPT ディスクラベルは認識されなくなり、ディスクのブート時に次のようなメッセージがホストコンソールに表示されます。

```
{900} ok boot
Bad magic number in disk label
Can't open disk label package
No viable default device found in boot-device variable.
```

回避方法: システムファームウェア 9.1.0 以降にアップグレードします。『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー管理ガイド』を参照してください。

システムファームウェア 9.1.0 以降にアップグレードできない場合は、Oracle Solaris 11.1 以降をインストールする前に、Oracle Solaris 自動インストーラ (AI) のデフォルトの動作を変更してください。AI マニフェストの <disk> スニペットの次の 4 行を変更して、EFI GPT ディスクラベルの代わりに SMI ディスクラベルをデフォルトで使用するよう AI を構成します。

```
<target>
  <disk whole_disk="true">
    <disk_keyword key="boot_disk"/>
```

```

    <slice name="0" in_zpool="rpool"/>
  </disk>
[...]
```

これで AI は、ブートディスク全体である slice0 をインストール用に作成します。

PCIe の障害が保守不能と報告され修復できない (17317884)

Oracle Solaris から Oracle ILOM にプロキシされる障害は、異常な状態になる場合があります。Oracle Solaris の診断された障害を Oracle ILOM から修復しようと試みたときに Oracle Solaris がシャットダウンした場合、修復は完了せず、I/O 関連のリソースが影響を受けることがあります。この場合、Oracle ILOM から障害を修復することはできません。

fmadm faulty コマンドの出力で FRU ステータスが repair attempted になっていれば、疑わしい障害を識別できます。次に例を示します。

```

.
.
.
Suspect 1 of 9
  Fault class   : fault.io.pciex.device-interr
  Certainty     : 14%
  Affects       : /SYS/IOU0/IOB0/PCIE_SWITCH1/PCIE_LINK8
  Status        : OK
.
.
.
FRU
  Status        : repair attempted
  Location       : /SYS/IOU0/IOB0
  Manufacturer   : Celestica Holdings PTE LTD
  Name           : M4-32 IO Switch IDT Board
  Part_Number    : 07041871
  Revision       : 06
.
.
.
```

回避方法: Oracle Solaris が稼働しているときに、Oracle ILOM で障害を修復するか赦免してください。うまくいかない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

SLINK UE からの回復の断続的な失敗 (17290820)

次のようなホストコンソールの出力で、レッドステート状況を確認できます。

```
Redstate trap occurred on socket 4 strand 80
2013-08-08 18:17:03 4:10:0> NOTICE:
```

```
Redstate handler finished
```

レッドステート状況の後、自動回復が開始され、ホストの `autorunonerror` プロパティーが `powercycle` に設定されていても、ホストは自動再起動を完了しない場合があります。自動回復中、ホストコンソールに、次のような障害メッセージが表示されることがあります。

```
2013-08-08 18:41:51      SP> NOTICE: Faulted /SYS/SSB7/SA/SLINK12 will exclude /SYS/
CMU2/CMP1 on future reboots
2013-08-08 18:41:52      SP> NOTICE: Abort boot due to /SYS/SSB7/SA/SLINK12. Power
Cycle Host
2013-08-08 18:41:53      SP> NOTICE: Faulted /SYS/CMU2/CMP1/SLINK4 will exclude /SYS/
CMU2/CMP1 on future reboots
2013-08-08 18:41:56      SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 6 of 9
2013-08-08 18:42:04      SP> NOTICE: Faulted /SYS/SSB7/SA/SLINK13 will exclude /SYS/
CMU0/CMP1 on future reboots
.
.
.
2013-08-08 18:43:13      SP> NOTICE: Check for usable CPUs in /SYS/DCU0
2013-08-08 18:43:14      SP> NOTICE: Exclude /SYS/CMU0/CMP0. Reason: Prior fault on
dependent resource
2013-08-08 18:43:15      SP> NOTICE: Exclude /SYS/CMU0/CMP1. Reason: Prior fault on
dependent resource
.
.
.
2013-08-08 18:43:19      SP> NOTICE: Apply configuration rules to /SYS/DCU0
2013-08-08 18:43:20      SP> NOTICE: Exclude all of /SYS/DCU0. Reason: No configurable
CPU in an even slot
2013-08-08 18:43:21      SP> NOTICE: HOST0 cannot be restarted. Reason: No configurable
CPUs
2013-08-08 18:44:03      SP> NOTICE: Host is off
```

回避方法: 手動でホストを停止し、障害を赦免し、ホストを起動します。

1. すべてのホストを停止します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

2. Oracle ILOM 障害管理シェルを起動します。

```
-> start -script /SP/faultmgmt/shell
```

3. 障害を一覧表示します。


```
faultmgmtsp> fmadm faulty
```

4. SLINK に影響する障害の UUID を記録します。

次に例を示します。

```
Time                UUID                msgid                Severity
-----
2013-08-16/12:56:32 09135d98-eafb-ee84-8643-fd8bb879cb6f SPSUN4V-8001-83 Critical
.
.
.
Suspect 1 of 2
  Fault class   : fault.asic.switch.c2c-uc
  Certainty    : 50%
  Affects      : /SYS/SSB7/SA/SLINK13
  Status       : faulted
.
.
.
Suspect 2 of 2
  Fault class   : fault.cpu.generic-sparc.c2c-uc
  Certainty    : 50%
  Affects      : /SYS/CMU0/CMP1/SLINK4
  Status       : faulted
.
.
.
```

/SYS/SSB7/SA/SLINK13 と /SYS/CMU0/CMP1/SLINK4 の SLINK に影響する障害の UUID は 09135d98-eafb-ee84-8643-fd8bb879cb6f です。

5. 障害を赦免します。

```
faultmgmtsp> fmadm acquit UUID
```

ここで、*UUID* は障害の UUID です。次に例を示します。

```
faultmgmtsp> fmadm acquit 09135d98-eafb-ee84-8643-fd8bb879cb6f
```

6. すべての障害それぞれに手順 5 を繰り返します。

7. Oracle ILOM 障害管理シェルを終了します。

```
faultmgmtsp> exit
```

```
->
```

8. すべてのホストを起動します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

/usr/local から /persist へのファイルのコピー時間が変動する (17222269)

システムファームウェアのアップグレードプロセスの一環として SP がリブートを完了した直後にホストの起動を試みた場合、アクティブ SP で障害が発生することがあります。アップグレード後のサービスの起動中に pdm の待機がタイムアウトになったことを示すメッセージが、アクティブ SP のシリアルコンソールに表示されることがあります。次に例を示します。

```
Starting Physical Domain Manager: pdm . Done
Starting Platform Obfuscation Daemon: pod . Done
waiting for pdm ... failed. Timeout after 301 seconds.
waiting for pod fsm ready ... done (took 0 secs)
```

SPP の準備が完了していないためにホストの起動が拒否されていることでも、この状況を識別できます。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Are you sure you want to start /Servers/PDomians/PDomains_x/HOST (y/n)? y
```

```
start: Operation not allowed while domain SP selection is in progress.
```

```
->
```

ここで、*x* は 0、1、2、または 3 です。

operation_in_progress プロパティを調べて、ホストの状態を確認できます。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
operation_in_progress
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Properties
```

```
operation_in_progress = Host DCU reconfiguration in progress
```

```
->
```

回避方法: ファームウェアのアップグレードの直後に、ホストの起動が失敗し、「domain SP selection is in progress」というメッセージが表示された場合は、operation_in_progress プロパティをもう一度調べます。プロパティの値が none である場合、ホストを再起動してみてください。ホストを再起動できない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

ファームウェアのアップグレードおよび SPP フェイルオーバー後にホストを起動できない (17191941)

デフォルト構成では、すべての DCU は /HOST0 に割り当てられ、SPP0 は /HOST0 に割り当てられ、その他の SPP はすべてフェイルオーバーに備えてスタンバイに設定されています。非保存モード (デフォルト構成へのフォールバックを呼び出す) でシステムファームウェアのアップグレードを実行し、そのあとで SPP0 からのフェイルオーバーが行われた場合、/HOST0 を起動できないことがあります。

回避方法: -f オプションを付けて /HOST0 を起動します。次に例を示します。

```
-> start -f /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
```

/HOST0 に DCU が割り当てられていない場合、reset /System が失敗する (17020066)

reset /System コマンドは、4 つのそれぞれのホストを順番にリセットすることによりシステムをリセットします。/HOST0 に DCU が割り当てられていない場合、システムのリセットが失敗し、コンソールに次のように表示されることがあります。

```
-> reset /System
Are you sure you want to reset /System (y/n)? y
Performing reset on /System
reset: Command Failed
->
```

このメッセージが表示された場合は、/HOST0 に DCU が割り当てられていないことを検証します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST dcus_assigned
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Properties:
    dcus_assigned = none
->
```

回避方法: /HOST0 に DCU が割り当てられていない場合、すべてのホストを個々にリセットすることによりシステムをリセットします。次に例を示します。

-> reset /Servers/PDomains/PDomain_*x*/HOST

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

Command Failed メッセージが解消されない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

fmadm faulty コマンドで重複したサスペクトが表示される (16996677)

Oracle ILOM の `fmadm faulty` コマンドで、障害の発生した疑いのあるコンポーネントと、障害を発生させたその可能性 (確実性と呼ばれます) が表示されます。確実性はパーセントで表されます。サスペクトの数とは無関係に、すべての確実性の合計は 100% に等しくする必要があります。

一部の状況では、`fmadm faulty` コマンドで、疑わしいコンポーネントが複数回表示され、確実性の合計が 100% 以上の値になることがあります。

回避方法: 重複した疑わしいコンポーネントとその確実性は無視して構いません。または、Oracle ILOM イベントログを使用すれば、疑わしい FRU とその可能性 (確実性) が正しく表示されます。

SPP の MAC アドレスがデフォルトにリセットされる (16711562)

AC 電源サイクル後、SPP の事前構成された MAC アドレスが失われることがあります。この場合、SPP は、工場出荷時のハードコードされた MAC アドレスにフォールバックしますが、これはすべての SPP で同じです。この結果、特に問題が 2 つ以上の SPP に影響を与えた場合、内部 VLAN を介した SPP との通信で問題が発生します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

SP の管理でテーブルが想定どおりに表示されない (16607793)

Oracle ILOM Web インタフェースを使用して SP を管理する場合、「System Log」をクリックするとシステムログがテーブルに表示されます。テーブルの下部にあるアイコンを使用すると、システムログをページごとに表示するか、システムログのすべてのページを単一のページとして表示できます。



ただし、アイコンのいずれかをクリックすると、Web インタフェースにはシステムログではなく次のエラーメッセージが表示されます。



「System Log」をクリックして、システムログを再度表示します。

回避方法: システムログを表示するための回避方法は 2 つあります。

- 複数のページを 1 つのページとして表示するには、[38 ページの「表示行数を最大の 999 に設定する」](#)を参照してください。
- ページを順次表示するには、[38 ページの「改ページでシステムログを表示する」](#)を参照してください。

表示行数を最大の 999 に設定する

注記 - この回避方法では、最近のシステムログエントリだけを最大 999 個表示できます。この制限より古いエントリは、Web インタフェースに表示できません。最新の 999 個より古いログエントリを表示するには、2 番目の回避方法である[38 ページの「改ページでシステムログを表示する」](#)を使用してください。

1. 「System Log」ページで次のアイコンをクリックします。



「Table Preferences」ペインが開きます。

2. 「Rows Per Page」値を 999 に設定します。
3. 「OK」をクリックします。

システムログテーブルが最長の 999 行まで再表示されます。

改ページでシステムログを表示する

1. Oracle ILOM CLI インタフェースで、システムログを表示します。

```
-> show /System/Log/list/
```

Log

ID	Date/Time	Event Type	Subsystem
211	Tue Apr 9 07:12:13 2013	CMU Service Required	Domain

Configuration Unit

Component:CMU12 (Processor Board 12)

During poweron testing, a lane failover has occurred on an interconnect between a CPU chip and a switch chip (Probability:100,

UUID:ad389dc3-9fbf-4deb-8091-8befb50cb351, Part Number:07049779, Serial Number:465769T+1221WV0017, Reference

Document:http://support.oracle.com/msg/SPSUN4V-8001-6Q)

210	Tue Apr 9 07:11:42 2013	CMU Service Required	Domain
-----	-------------------------	----------------------	--------

Configuration Unit

Component:CMU11 (Processor Board 11)

A CRC error has occurred in the interconnect between two CPU chips.

While no data has been lost, a lane failover has taken place.

.
.
.

Paused: press any key to continue, or 'q' to quit

注記 - 出力の幅、およびページごとに表示されるログエントリ数は、コマンド入力時の端末ウィンドウのジオメトリによって決まります。

2. システムログの次のページを表示するにはスペースバーを押し、出力を停止するには Q キーを押します。

PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

いずれかの PDomain の PDomain-SPP にログインし、/HOST/console/history Oracle ILOM ターゲットを使用してコンソール履歴を表示しようとすると、常に PDomain_0 のものが出力に表示されます。

回避方法: アクティブ SP にログインし、各 PDomain のコンソール履歴を表示します。

-> **show /Servers/PDomains/PDomain_*x*/HOST/console/history**

ここで、*x* は PDomain の識別番号 (0 - 3) です。

PDomain-SPP のフェイルオーバー後に usbEthernet を回復する方法を記載する必要がある (16370459)

これらのプロダクトノートが使用可能になった時点では、SPP のフェイルオーバー後に USB over Ethernet の自動回復を可能にする構成はありません。

回避方法: ホストをリブートすると、Oracle Solaris の起動中に usbEthernet デバイスの検出と構成が開始されます。

0 より大きい拡張不可 DCU 番号の IOS 番号がゼロから始まる (16103395)

拡張不可 PDomain が構成されているサーバーで、各ブートサイクル中にハイパーバイザから報告される PCI サブシステムルートの複合識別子 (IOS 番号) は、特定の物理リンクに簡単には変換されません。この動作は、ereport (エラーレポート) やほかのレポートメカニズムには影響を与えません。

回避方法: 完全に装着された拡張不可 PDomain には 16 の IOS があります (装着された CPU ソケット当たり 2 つ)。出力された IOS 番号をグローバルなソケット ID にマッピングするには、PDomain の ID に 16 を掛け、出力された IOS 番号を足します。

次に例を示します。

PDomain 1 の IOS 3 は $3 + (1 \times 16) = \text{pci_19}$ 。

ACTIVE_SP 浮動 IP アドレスが機能するためには SP0 および SP1 の物理 IP アドレスが必要 (16032825)

この 2 つの SP には、一意の IP アドレスが `/SP/network/SP0/ipaddress` および `/SP/network/SP1/ipaddress` Oracle ILOM ターゲットによって構成されます。また、アクティブ SP への接続に使用される浮動 IP アドレスが `/SP/network/ACTIVE_SP/ipaddress` ターゲットによって構成されています。ACTIVE_SP IP アドレスがわかれば、どの SP (SP0 または SP1) がアクティブかを知る必要はなく、常にアクティブ SP に接続できます。

ACTIVE_SP IP アドレスが構成されていても、SP0 と SP1 の両方の IP アドレスが構成されるまで、ACTIVE_SP IP アドレスは機能しません。次に例を示します。

- `/SP/network/SP0/ipaddress = 123.45.67.89`
- `/SP/network/SP1/ipaddress = 0.0.0.0`
- `/SP/network/ACTIVE_SP/ipaddress = 123.45.67.91`

この場合、ACTIVE_SP IP アドレスは機能しません。

回避方法: SP0 と SP1 の両方に、一意の IP アドレスが構成されていることを確認します。

/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST にプロパティー bootfailrecovery がない (15898296)

標準の Oracle ILOM では、/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST ターゲットには次のプロパティーがあります。

- boottimeout
- maxbootfail
- bootrestart
- bootfailrecovery

このサーバー向けの Oracle ILOM の実装では、Oracle ILOM がホストのブートを管理するようになっています。そのため、これらのプロパティーは使用できません。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

Oracle ILOM が EMS ホットプラグイベントを逆順に報告する (15822281)

たとえば、コンポーネントがスロットからホットプラグで取り外され、別のコンポーネントが別のスロットにホットプラグで挿入された場合、Oracle ILOM が取り外しの前に挿入を報告することがあります。

Oracle ILOM は、サーバーの各スロットをシーケンシャルにモニターします。すべてのスロットを確認して 1 サイクルが完了します。サイクルの完了後に Oracle ILOM が変更を検出すると、その変更をログファイルに報告します。スロットの確認後にコンポーネントがそのスロットに挿入されたりそのスロットから取り外されたりすると、次のサイクルの終了時まで Oracle ILOM は変更を報告しないことがあります。

Oracle ILOM がスロット A を確認したあとでコンポーネントがそのスロットから取り外され、Oracle ILOM が別のスロット F を確認する前に同じコンポーネントがそのスロットに挿入されるような状況の例を考えてみます。サイクルの終了時に Oracle ILOM はコンポーネントがスロット F に挿入されたことを報告します。次のサイクルで Oracle ILOM はスロット A を確認し、コンポーネントが失われていることを検出します。このサイクルの終了時に Oracle ILOM はコンポーネントがスロット A から取り外されたことを報告します。

回避方法: ホットプラグの取り外し操作やホットプラグの挿入操作の間隔は少なくとも 60 秒待機して、Oracle ILOM がスロットを複数回サイクルできるようにします。ホットプラグ操作が発生順に報告されます。

エラーメッセージ「WARNING: /pci@340/pci@1/ pci@0/pci@8/usb@0/hub@5 (hubd0): Connecting device on port 0 failed」 (15799824)

Oracle Solaris のブート時に、次の警告メッセージがホストコンソールに表示されることがまれにあります。

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@8/usb@0/hub@5 (hubd0): Connecting device on port 0  
failed
```

この警告メッセージは、SP と Oracle Solaris ホストの間で障害情報を交換するためのネットワーク接続を確立しようとして、USB ネットワークデバイス (usbecm) に問題が発生したことを示しています。通常、警告メッセージが表示された数秒後に USB デバイスは正常に接続します。

USB デバイスが正常に接続したことを検証するには、Oracle Solaris の `/var/adm/messages` ファイルに次のような出力があることを確認します。

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@8/usb@0/hub@5 (hubd0): Connecting device on port 0  
failed  
NOTICE: usbecm1 registered  
usba: [ID 912658 kern.info] USB 1.10 device (usb430,a4a2) operating at full speed (USB  
1.x)  
on USB 2.0 external hub: communications@0, usbecm1 at bus address 3  
usba: [ID 349649 kern.info] SunMicro Virtual Eth Device  
usbecm1 is /pci@340/pci@1/pci@0/pci@3/usb@0/hub@5/communications@0  
genunix: [ID 408114 kern.info] /pci@340/pci@1/pci@0/pci@3/usb@0/hub@5/communications@0  
(usbecm1) online
```

回避方法: このような行が `/var/adm/messages` ファイルに見つからない場合は、USB 接続を再度確立するために Oracle Solaris ホストをリブートします。リブート後も問題が解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

Oracle Solaris の既知の問題

次の問題が、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する Oracle Solaris の既知の問題です。

- [44 ページの「OS の更新で解決される Oracle Solaris の問題」](#)

- 44 ページの「`statvfs` が 32T バイトメモリ構成で失敗する (17362334)」
- 45 ページの「300 秒クロックが動作しなかったあとのデッドマンタイムアウト (17284789)」
- 45 ページの「`drand48` ルーチンが終了しない (17169064)」
- 46 ページの「インストール後のスクリプトを実行すると Oracle Solaris がパニックになる (17157261)」
- 46 ページの「プライマリドメインのリブート後、I/O ドメインが移行状態になる (17020481)」
- 47 ページの「`PCI_IOV_SDI0_GROUP` バージョン 2.1 をサポートするには Oracle Solaris px ドライバが必要 (16739540)」
- 47 ページの「SPARC M シリーズ CPU の倍率が識別されない (16713667)」
- 48 ページの「デュアルパスディスクの LED ステータスの制御サポート (16458281)」
- 48 ページの「ホットプラグで電源を切断し PCIe カードを有効にするとハングアップする (16456762)」
- 48 ページの「リブートループ中に NULL ポインタ間接参照が原因でホストが `genunix` にパニックを起こす (16432520)」
- 49 ページの「SDIO または SRIOV ドメインの `ldm unbind` がハングアップ (16426940)」
- 49 ページの「CPU 電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが劇的に低下することがある (16355418)」
- 50 ページの「最初の実行後に Matrox デバイスの ROM マッピングエラーが発生する (16245956)」
- 51 ページの「`panic: mpo_cpu_add: cannot read MD` (16238762)」
- 51 ページの「M5-32 の最大 CPU 構成のシステムで `cpustat` テストが `cpustat: no memory available` となって失敗する (16219284)」
- 52 ページの「アクティブ `mempm` は Kcage 割り当てをすべての `mnode` に分散する必要がある (15944881)」
- 53 ページの「DI を有効にするときに `ilomconfig` がときどき「Internal error」を返す (15823485)」
- 53 ページの「使用可能な論理ドメインの CPU の動的再構成によってパニックが発生する (15823255)」
- 54 ページの「カーネル警告 `px0: px_ib_intr_dist_en` (15812773)」
- 55 ページの「`libldom/ldom_xmpp_client.c` のファイル記述子のリーク (15811297)」
- 55 ページの「実際のマウスポインタとリモートウィンドウ上のカーソルがずれる (15798251)」

OS の更新で解決される Oracle Solaris の問題

CR 番号	解決される OS バージョン	リンク
16456762	11.1.10.6.0	48 ページの「ホットプラグで電源を切断し PCIe カードを有効にするとハングアップする (16456762)」
16432520	11.1.10.6.0	48 ページの「リブートループ中に NULL ポインタ間接参照が原因でホストが genunix にパニックを起こす (16432520)」
16426940	11.1.9.5.1	49 ページの「SDIO または SRIOV ドメインの ldm unbind がハングアップ (16426940)」
16419614	11.1.9.5.1	24 ページの「rKVMS ビデオリダイレクション」
16245956	11.1.7.5.0	50 ページの「最初の実行後に Matrox デバイスの ROM マッピングエラーが発生する (16245956)」
16238762	11.1.7.5.0	51 ページの「panic: mpo_cpu_add: cannot read MD (16238762)」
15968765	11.1.7.5.0	24 ページの「rKVMS ビデオリダイレクション」
15944881	11.1.6.4.0	52 ページの「アクティブ mempm は Kcage 割り当てをすべての mnode に分散する必要がある (15944881)」
15823255	11.1.5.5.0	53 ページの「使用可能な論理ドメインの CPU の動的再構成によってパニックが発生する (15823255)」

statvfs が 32T バイトメモリー構成で失敗する (17362334)

サーバーに 32T バイトのメモリーが構成されている場合、tmpfs ファイルシステムへの statvfs システムコールは EOVERFLOW エラーで失敗することがあります。たとえば、次のようなメッセージがホストコンソールに表示される可能性があります。

```
Sep 10 22:10:51 sca-m432-108-pd0 svc.startd[11]: [ID 652011 daemon.warning]
svc:/system/fmd:default: Method "/lib/svc/method/svc-fmd" failed with exit
status 1.
```

オーバーフローは、tmpfs ファイルシステムで許容可能な最大のファイル数を提供するデータ構造のメンバーから起こります。

回避方法: /etc/system ファイルで、オーバーフローを避けるために、tmpfs が許可されているファイル数を制限します。

```
set tmpfs:tmpfs_maxkmem = 12000000000000
```

300 秒クロックが動作しなかったあとのデッドマンタイムアウト (17284789)

Oracle VTS Bustest は、非常に特殊なオプションで構成された場合、TLB (Translation Lookaside Buffer) を重点的に実行できます。ほかのアプリケーションもバッファを酷使できますが、それには、大きなページへのメモリの自動融合などの予防機能を無効にする必要があります。

TLB の過度の使用の徴候には次のものがあります。

- アプリケーションスケジューリング待機時間の変動
- I/O タイムアウトに関連したドライバメッセージ
- ネットワーク待機時間の変動
- デッドマンパニック

たとえば、ホストコンソールには次のように表示されます。

```
panic[cpu2056]/thread=c4077da02e20: deadman: timed out after 300 seconds of clock inactivity
```

回避方法: Oracle VTS Bustest の実行を控えてください。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

drand48 ルーチンが終了しない (17169064)

drand48 ルーチンは乱数の生成に使用されます。また、vCPU の数と同数のスレッドをアプリケーションで作成する状況を考えてみます。1024 を超えるスレッドがあり、各スレッドが drand48 ルーチンを同時に呼び出した場合、アプリケーションのパフォーマンスは低下する可能性があります。

回避方法: 2 つの回避方法があります。

- 最適な数のスレッドだけが drand48 ルーチンを呼び出すようにマルチスレッドアプリケーションを設計して、ロック競合の問題を回避します。
- 同じロックを求めて競合しないほかの乱数生成ルーチンを使用するか、乱数の生成時にはロックをかけないようにします。

インストール後のスクリプトを実行すると Oracle Solaris がパニックになる (17157261)

1700 以上の vCPU と 2T バイト以上のメモリーの論理ドメイン構成で、RAC 機能をインストールすると、インストール後のスクリプト `root.sh` がシステムパニックを引き起こします。システムログファイルには、「forced crash dump initiated at user request」と「The system has rebooted after a kernel panic」が報告されています。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

プライマリドメインのリブート後、I/O ドメインが移行状態になる (17020481)

論理ドメインと多数の仮想機能で構成され、`failure-policy` パラメータが `reset` に設定されているサーバーでは、プライマリドメインがリブートされると、I/O およびゲストドメインが移行状態でハングアップすることがあります。

回避方法: プライマリドメインをリブートする前に、論理ドメインごとに次の手順を実行します。

1. プライマリドメインコンソールから、`telnet` コマンドを使用して、論理ドメイン上の OpenBoot にアクセスします。
2. OpenBoot プロンプトで、`boot-device` パラメータを設定します。

```
ok> setenv boot-device disk disk disk disk disk disk disk disk disk disk net
```

注記 - `setenv boot-device` に続く `disk` エントリの数は、構成されている仮想機能の数に応じて異なります。200 以上の仮想機能が構成されている場合、この例で十分です。仮想機能が少ない場合、必要な `disk` エントリは少なくなります。

3. `printenv` コマンドを使用して、`boot-device` パラメータを検証します。
4. プライマリドメインコンソールに戻ります。

注記 - 論理ドメインをブートしないでください。

5. システムのすべての論理ドメインに対して手順 1 から手順 4 を繰り返します。
6. プライマリドメインをリブートします。

PCI_IOV_SDIO_GROUP バージョン 2.1 をサポートするには Oracle Solaris px ドライバが必要 (16739540)

PCI デバイスは SDIO によってゲストドメインに貸し出すことができます。通常の使用中に貸し出されたデバイスで何らかの問題や障害が検出されると、Oracle Solaris プライマリドメインはハイパーバイザに通知せずにそのデバイスをリタイアします。

デバイスがリタイアされるため、Oracle Solaris プライマリドメインはそのデバイスの PCI アクセスを有効にするようにハイパーバイザに指示しなくなります。PCI デバイスの状態は不確定になります。

デバイスに関連付けられたゲストドメインがその後再起動すると、PCI デバイスの OpenBoot 検証中にゲストドメインがハングアップします。ハングアップは、ゲストドメインのコンソールにこのメッセージが表示されることで識別されます。

NOTICE: Probing PCI devices

回避方法: 不確定な状態に遷移したデバイスをそのゲストドメインから削除します。Oracle Solaris プライマリドメインでこれらの手順を実行します。

1. 影響のあるゲストドメインを停止します。
2. `ldm rm-io` コマンドを使用して、不確定の状態にあるデバイスをゲストドメインから削除します。
3. ゲストドメインを再起動します。

SPARC M シリーズ CPU の倍率が識別されない (16713667)

RDBMS 関数 `skgpcpubrand()` は SPARC M シリーズプロセッサを検出せず、`skgp_cpu_eff_thread_mult()` 関数に、これらのプロセッサに対して 0.5 の実効スレッド倍率を生成するように通知できません。

回避方法: 次の行を `/etc/system` ファイルに追加することによって実効倍率を手動で設定し、リブートします。

```
set _cpu_eff_thread_multiplier = 0.5
```

デュアルパスディスクの LED ステータスの制御サポート (16458281)

出荷時に、サーバーの内蔵ハードドライブはマルチパス (mpxio) デバイスとして構成されているため、取り外す前にドライブの両方のパスについて `cfgadm unconfigure` コマンドを発行する必要があります。ドライブの 1 番目のパスを構成解除すると、青色の「OK to Remove」LED が点灯します。この時点では、ドライブを取り外さないでください。2 番目のパスを構成解除するまでは、ドライブを取り外すのは安全ではありません。

回避方法: ハードドライブの取り外し許可については、青色の「OK to Remove」LED で判断しないでください。代わりに、`cfgadm -al` または `format` コマンドを使用して、両方のパスが構成解除されたこと、およびドライブを取り外しても本当に安全であることを検証します。

ホットプラグで電源を切断し PCIe カードを有効にするとハングアップする (16456762)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.10.6.0 以降にアップグレードしてください。

`hotplug` または `cfgadm` コマンドを使用して PCIe アダプタのホットプラグを実行するとき、コマンドがハングアップし、アダプタが使用不可になることがまれにあります。

回避方法: Oracle Solaris をリブートしてこの状態を解消し、ホットプラグされた PCIe アダプタの使用を有効にします。

リブートループ中に NULL ポインタ間接参照が原因でホストが genunix にパニックを起こす (16432520)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.10.6.0 以降にアップグレードしてください。

ブート中または I/O コンポーネントのホットプラグ中に、システムコンソールでパニックが発生することがまれにあります。このパニックでは、次のようなメッセージが表示されます。

```
panic[cpu596]/thread=2a1069b7c60:  
BAD TRAP: type=31 rp=2a1069b72d0 addr=28 mmu_fsr=0 occurred
```


in module "genunix" due to a NULL pointer dereference

回避方法: 障害発生時にシステムをリブートします。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

SDIO または SRIOV ドメインの `ldm unbind` がハングアップ (16426940)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.9.5.1 以降にアップグレードしてください。

SDIO や SRIOV などの IOV 技術が利用されている場合、割り当てられている I/O デバイスをゲストドメインから取り外すとき、または割り当てられているデバイスが使用中であるのにゲストドメインをバインド解除するとき、`ldm` コマンドがハングアップすることがあります。ハングアップしたコマンドを `Ctrl + C` を使用した中止も、失敗することがあります。

コマンドの例:

- `ldm unbind ldg1`
- `ldm rm-io /SYS/RIO/NET0/IOVNET.PF0.VF10 ldg1`
- `ldm rm-io /SYS/IOU2/PCIE2 ldg1`

回復方法: プライマリドメイン上で Oracle Solaris をリブートします。I/O リソースをプライマリドメインと共有しているゲストドメインがある場合は、これらのゲストドメインでも Oracle Solaris をリブートする必要があります。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

CPU 電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが劇的に低下することがある (16355418)

非常に多くの小規模な I/O 操作を短いバーストで実行しようとするワークロードは、ほかには負荷のかかっていないサーバー上であっても、低いパフォーマンスを示すことがあります。これに対し、少数の大規模な I/O 操作のワークロードの場合、パフォーマンスは影響を受けません。

回避方法: CPU 電力管理を無効にするための回避方法は 2 つあります。回避方法のあとは、パフォーマンスは向上しますが、消費電力は増加します。制限事項に従っているかぎり、両方の回避方法を同じサーバーで使用できます。

注記 - 回避方法を適用したあとで PDomain をリブートする必要はありません。回避方法の効果はリブート後も持続します。

- 特定の PDomain 内のすべての論理ドメインに回避方法を適用するには、アクティブ SP で Oracle ILOM CLI インタフェース内から次のコマンドを入力します。

```
-> set /Servers/Pdomains/Pdomain_x/SP/powermgmt  
policy=disabled
```

ここで、*x* は影響を受ける PDomain の番号 (0 - 3) です。

注記 - この回避方法は、administrative-authority プロパティの値が platform になっている論理ドメインに対してのみ機能します。administrative-authority が platform 以外の場合は、次の回避方法を参照してください。

- 回避方法を各論理ドメインに選択的に適用する場合、または論理ドメインの administrative-authority プロパティの値が platform 以外の場合は、論理ドメイン内の Oracle Solaris プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# poweradm set administrative-authority=none
```

問題が解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

最初の実行後に Matrox デバイスの ROM マッピングエラーが発生する (16245956)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.7.5.0 以降にアップグレードしてください。

2 回目の起動で KVMS ビデオリダイレクションが失敗し、結果として X サーバーでコアダンプが生成され、次のメッセージがコンソールに表示されます。

```
Fatal server error:  
Caught signal 10 (Bus Error). Server aborting
```

回避方法: システムをリブートして rKVMS 機能を復元します。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

panic: mpo_cpu_add: cannot read MD (16238762)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.7.5.0 以降にアップグレードしてください。

ldm add-vcpu コマンドを使用してドメインに CPU を割り当てるとき、次の条件がすでに満たされている場合:

- 追加の DCU がホストに割り当てられています。
- ホストに割り当てられているハードウェアの一部が含まれていない、以前に保存された spconfig ファイルでホストが起動されました。

Oracle Solaris でパニックが発生し、次のメッセージが表示されることがあります。

```
panic[cpux]/thread=thread_ID: mpo_cpu_add: Cannot read MD
```

パニックが発生するドメインは、ldm add-vcpu コマンドのターゲットドメインです。リブートにより、ドメインは回復し、追加の CPU を含むようになります。

回避方法: CPU を正常に追加するには、[23 ページの「新しく割り当てられた PDomain に CPU を追加する」](#)の手順に従います。

M5-32 の最大 CPU 構成のシステムで cpustat テストが cpustat: no memory available となって失敗する (16219284)

サーバーに 1024 個を超えるオンラインの CPU があり、プロセス当たりのスタックセグメントが 8192 (デフォルト) より大きい値に設定されている場合、cpustat コマンドが失敗し、次のいずれかのエラーが表示されることがあります。

- cpc_setgrp: no memory available
- cpc_set_add_request() failed: Not enough space
- cpc_setgrp: cpc_strtoiset() failed

次に例を示します。

```
# /usr/sbin/cpustat -c PAPI_tlb_dm -mA cor 1 1
cpc_setgrp: no memory available
#
```

回避方法: `ulimit -s 8192` コマンドを使用して最大スタックセグメントをデフォルト値に設定するか、オンラインの CPU の数を 1024 個以下に減らしてから、`cpustat` コマンドを再度入力します。

アクティブ mempm は Kcage 割り当てをすべての mnode に分散する必要がある (15944881)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.6.4.0 以降にアップグレードしてください。

Oracle Solaris カーネルは、そのデータ構造を、カーネルメモリの制限を定義するケージの内側で管理します。ケージのサイズは必要に応じて拡大できます。NUMA システムでは、カーネルがメモリの 1 セクション (近傍性グループ) を使い果たすることがないように、ケージの場所がメモリ全体に分散されます。メモリが別の `lgrp` 内のリモートにある場合より、ローカルにある場合のほうが、近傍性グループ (`lgrp`) 内のプロセッサ上で実行されているユーザーコードのパフォーマンスは向上します。

大規模なドメインに多数の CPU があるときにアプリケーションのパフォーマンス低下や負のスケールリングが見られる場合、あるいは、多数のネットワークアダプタのネットワークスループットの総計が 12G バイト/秒に制限されているように見える場合は、`mempm` コードによってパフォーマンスが向上する可能性があります。

デフォルトでは、Oracle Solaris カーネル内の `mempm` コードは有効になっています。`mempm` コードは、メモリコントローラの消費電力をモニターする割り当てアルゴリズムを使用して、カーネルケージの拡大を分散します。一部のワークロードについては、電力を認識しない従来型の割り当てアルゴリズムを使用して、カーネルメモリをより均等に分散できます。

回避方法: `mempm` コードを無効にし、パフォーマンスが向上したかどうかを調べます。

1. `/etc/system` ファイルを編集して、次の行を追加します。

```
set plat_disable_mempm=1
```

2. Oracle Solaris をリブートします。
3. `lgrpinfo` コマンドを使用して、メモリ使用量がより均等に `lgrps` 間で分散されているかどうかを調べます。

問題が解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

DI を有効にするときに `ilomconfig` がときどき「Internal error」を返す (15823485)

Oracle Solaris の `ilomconfig` コマンドを使用すると、オペレーティングシステムと SP の間の通信チャンネルを有効または無効にできます。チャンネルはデフォルトで有効になっており、無効化が必要になる場合はほとんどありません。チャンネルを無効にした場合は、インターコネクトを再度有効にするアクションが「Internal error」というメッセージで失敗することがあります。次に例を示します。

```
# ilomconfig enable interconnect
ERROR: Internal error
#
```

注記 - インターコネクトは Oracle Solaris インスタンスと SP の間で診断データの転送に使用されるため、チャンネルをただちに有効に戻す必要があります。

回避方法: 成功するまで有効化コマンドを繰り返し入力します。

```
# ilomconfig enable interconnect
Host-to-ILOM interconnect successfully configured.
#
```

エラーが解決しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

使用可能な論理ドメインの CPU の動的再構成によってパニックが発生する (15823255)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris 11.1.5.5.0 以降にアップグレードしてください。

2 つ以上の DCU を含むマシン、論理ドメイン、または PDomain を持つサーバーでは、次の条件下で「`lpl_topo_verify failed: -5`」という Oracle Solaris のパニックが発生することがあります。

- マシン、論理ドメイン、または PDomain には少なくとも 2 つの DCU が構成されている必要があります。

- 1 つの DCU にのみ CPU が構成されています。
- その他の DCU には、CPU は構成されていないがメモリーが構成されている必要があります。
- その後、次のいずれかの操作が実行されます。
 - CPU を有効または無効にします。
 - CPU に対して動的再構成 (DR) を実行します。
 - プロセッサセットを作成または削除します。
 - プロセッサをプロセッサセットに追加またはプロセッサセットから削除します。

Oracle Solaris のパニックメッセージの例を次に示します。

```
panic[cpu<4>]/thread=<0x30012a008>: lpl_topo_verify failed: -5
```

システムがリブートしたあと、Oracle Solaris のパニックメッセージがコンソール上および `/var/adm/messages` ファイル内に表示されます。

回避方法: 次の手順に従います。

1. パニックを発生させる可能性のある上記の操作は、どれも実行しないようにします。
2. Oracle Solaris の `/etc/system` ファイルを編集して、次の行をファイルの末尾に追加します。

```
set lgrp_topo_levels=2
```

3. システムをリブートします。

リブート後は、上記の操作を実行しても安全です。

カーネル警告 `px0: px_ib_intr_dist_en (15812773)`

多量のディスクアクティビティーを伴うサーバーに重いネットワーク負荷がかかると、`/var/adm/messages` ファイルまたはシステムコンソールに次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
Mar  5 21:41:27 sca-m432-105-pd0 scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
/pci@1280/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@4/scsi@0 (mpt_sas34):
Mar  5 21:41:27 sca-m432-105-pd0 Disconnected command timeout for Target 9
```

```
px30: px_ib_intr_dist_en: sysino 0xffffffffffffffff(ino 0xd)
from cpu id 0x63 to 0x2c timeout
```

回避方法: これらのメッセージの発生がときどきの場合は、無視してかまいません。メッセージが持続する場合や連続して発生するようになった場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

libldom/ldom_xmpp_client.c のファイル記述子のリーク (15811297)

LDOM マネージャーがしばらくダウンしたあとは、Oracle Solaris の予測的自己修復 (PSH) の障害管理デーモン fmd が稼働状態でなくなっています。

回避方法: I/O 障害が疑われるが、PSH から報告されていない場合は、次の手順を実行します。

1. 最初に実行する手順を確認します。

- 論理ドメインマネージャー ldmd がオンラインの場合、このバグは問題になりません。

まだ問題が疑われる場合は、『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバースerviceマニュアル』の障害管理に関する情報を参照してください。

- 論理ドメインマネージャー ldmd がオフラインの場合は、手順 2 に進みます。

2. ldmd を再起動します。

3. fmd を再起動します。

I/O 障害が発生した可能性があります。PSH によって診断されませんでした。問題を特定するには、『SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバースerviceマニュアル』のシステムログに関する情報を参照してください。

実際のマウスポインタとリモートウィンドウ上のカーソルがずれる (15798251)

注記 - この問題を解決するには、Oracle Solaris パッチ 125719-50 以降を適用してください。

Oracle ILOM のビデオリモートコンソールではマウスポインタが正常に移動しないことがあります。カーソル位置が Oracle Solaris 10 ホストの Xorg サーバーと同期しなくなり、そのためにマウスナビゲーションやオブジェクトの選択が困難になることがあります。

回避方法: 必要に応じて、パッチを適用するか、または次の手順に従います。

マウスナビゲーションを調整する (マウス)

1. マウスを右クリックし、E キーを押します。

端末ウィンドウが開きます。

2. 一時的な修正を適用します。

xset m 1 1

3. 次に実行する手順を確認します。

- マウスを正常に制御できるようになった場合は、手順 4 に進みます。
- まだマウス制御が困難な場合は、[56 ページの「マウスナビゲーションを調整する \(キーボード\)」](#)の手順 4 を参照してください。

4. GNOME デスクトップから、「起動」->「システム」->「設定」->「マウス」を選択します。

マウスのプロパティウィンドウが開きます。

5. 動作を指定するタブをクリックします。
6. 「加速」スライダを左の「低速」へ移動します。
7. 「感度」スライダを左の「低い」へ移動します。
8. 「閉じる」をクリックします。

マウスが正しく移動します。

完全な回避方法については、[57 ページの「デフォルトのマウスナビゲーション設定を構成する」](#)を参照してください。

マウスナビゲーションを調整する (キーボード)

マウス制御が困難な場合は、この手順を実行します。

1. 最初に実行する手順を確認します。

- Alt + F2 を押して端末ウィンドウを開きます。
- Alt + Tab を押して端末ウィンドウに移動します。

2. 一時的な修正を適用します。

xset m 1 1

3. 次に実行する手順を確認します。

- マウスを正常に制御できるようになった場合は、[56 ページの「マウスナビゲーションを調整する \(マウス\)」](#)の手順 4 に進みます。
- まだマウス制御が困難な場合は、手順 4 に進みます。

4. マウスのプロパティを開きます。

gnome-mouse-properties

マウスのプロパティウィンドウが開きます。

5. Tab を押して「ボタン」タブを選択します。
6. 右矢印キーを押して、動作を指定するタブを選択します。
7. Return を押します。
8. Tab を押して「加速度」スライダを選択します。
9. 左矢印キーを押して、スライダを「低速」へ移動します。
10. Tab を押して「感度」スライダを選択します。
11. 左矢印キーを押して、スライダを「低い」へ移動します。
12. Tab を押して「閉じる」を選択します。
13. Return を押します。

マウスが正しく移動します。

完全な回避方法については、[57 ページの「デフォルトのマウスナビゲーション設定を構成する」](#)を参照してください。

デフォルトのマウスナビゲーション設定を構成する

注記 - Xorg セッションでマウスの加速を変更すると、デフォルト設定がオーバーライドされます。

1. /etc/hal/fdi/preprobe/10osvendor/10-x11-input.fdi ファイルをエディタで開きます。
2. ファイル内で次の行を見つけます。

```
<merge key="input.x11_options.StreamsModule" type="string">usbms</merge>
<merge key="input.x11_options.Protocol" type="string">VUID</merge>
```

3. これらの行のあとに、次のコードを追加します。

```
<merge key="input.x11_options.AccelerationScheme" type="string">none</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationNumerator" type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationDenominator" type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationThreshold" type="string">1</merge>
```

4. ファイルを保存します。
5. hal と gdm を再起動します。

```
svcadm restart hal
svcadm restart gdm
```

ハードウェアの既知の問題

- [58 ページの「SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問題」](#)
- [60 ページの「SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問題」](#)

SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問題

次の問題が、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する既知のハードウェアの問題です。

- [58 ページの「EMS RJ45 Ethernet の速度 LED とアクティビティ LED が暗すぎる \(16340264\)」](#)
- [59 ページの「Gen2 および Gen3 PCIe カードが下位の Gen1 にトレーニングされることがある \(15813273\)」](#)

EMS RJ45 Ethernet の速度 LED とアクティビティ LED が暗すぎる (16340264)

EMS RJ-45 Ethernet コネクタの LED が暗すぎて、ステータスを判断できないことがあります。

回避方法: Oracle Solaris プロンプトから `dladm show-phys` コマンドを使用して、Ethernet ポートの状態と速度を表示します。次に例を示します。

```
# dladm show-phys
```

LINK	MEDIA	STATE	SPEED	DUPLEX	DEVICE
net0	Ethernet	up	100	full	ixgbe0
net1	Ethernet	down	0	unknown	ixgbe1

次の表を使用して、`dladm show-phys` コマンドで表示される STATE 値をアクティビティ LED の状態に変換します。

STATE 値	アクティビティ LED の状態	コメント
up	点滅	リンクが確立しており、データが転送されています。
up	点灯	リンクが確立しています。
down	消灯	リンクが停止しているか、リンクがまったく存在しません。

次の表を使用して、`dladm show-phys` コマンドで表示される **SPEED** 値を速度 LED の色に変換します。

SPEED 値	速度 LED の色	コメント
10000	オレンジ色	10 ギガビット Ethernet
1000	緑色	1 ギガビット Ethernet
100	消灯	100BASE-T

Gen2 および Gen3 PCIe カードが下位の Gen1 にトレーニングされることがある (15813273)

非常にまれに、5.0 ギガ転送/秒 (Gen2) および 8.0 ギガ転送/秒 (Gen3) のデータ転送速度に対応した PCIe カードが、サーバーでサポートされているその最大速度でのトレーニングに失敗することがあります。代わりに、これらのカードは最小速度である 2.5 ギガ転送/秒 (Gen1) でトレーニングされ、そのためにパフォーマンスが低下することがあります。

I/O パフォーマンスの低下が疑われる場合は、Oracle Solaris `prtdiag` コマンドの出力を使用して、I/O セクション内の **Speed** 見出しの下に表示される各スロットの現在のリンクデータ速度を観察します。使用している特定の PCIe カードのドキュメントを参照して、カードの転送速度を確認します。

回避方法: PCIe カードが、サーバーでサポートされているその最大速度で動作しない場合は、PCIe カードをホットプラグによって削除し、ホットプラグによって追加します。これら 2 つの方法のどちらかを使用して PCIe カードをホットプラグすると、PCIe カードがサーバー内でのその最大パフォーマンスに戻ります。

- ホストで Oracle Solaris の `cfgadm` コマンドを使用して、PCIe カードをまず切断し、そのあとで構成します。

```
# cfgadm -c disconnect slot_name
```

```
# cfigadm -c configure slot_name
```

- PCIe スロットのアテンション (ATTN) ボタンを使用して構成解除してから、PCIe カードを再構成します。

1. PCIe スロットの後ろにある「ATTN」ボタンを押します。
2. 緑色の LED が数回点滅してから消灯するのを待ちます。
3. もう一度「ATTN」ボタンを押します。

緑色の LED が数回点滅したあと、点灯したままになります。

SPARC M5-32 サーバーのハードウェアの問題

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーのみに関する既知のハードウェアの問題です。

- 60 ページの「AC 電源サイクル後のフロントパネルのキースイッチ動作が正しくない (16769450)」
- 60 ページの「state_capture_mode が有効になっている場合、致命的エラーのあとで SPP の再起動が必要になることがある (16264060)」

AC 電源サイクル後のフロントパネルのキースイッチ動作が正しくない (16769450)

この時点では、フロントパネルのキースイッチ位置は無視されます。そのため、AC 電源が供給されていないときは、PDomain が自動的にブートしません。

回避方法: SP にログインし、このコマンドで PDomain を起動します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は起動する PDomain の番号です。

state_capture_mode が有効になっている場合、致命的エラーのあとで SPP の再起動が必要になることがある (16264060)

/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST ターゲットの state_capture_mode プロパティを使用すると、Oracle ILOM で特定のイベントのスキャンダンプを取得するように構成できます。たとえば、FATAL エラーのスキャンダンプをトリガーするには、次のコマンドを使用します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
state_capture_mode=fatal_scandump
```

ここで、*x* は、各 PDomain に対応する 0 - 3 です。FATAL エラーが発生した場合、システムの電源が切れます。SPP で次のコマンドを使用して、システムの電源を投入し直します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

まれに、システムの電源再投入が失敗し、特定の SPP に関する ereport (エラーレポート) と障害が生成されることがあり、SPP で次の Oracle ILOM コマンドを入力すると確認できます。

```
-> start /SP/faultmgt/shell
faultmgtsp> fmdump -e

ereport.chassis.device.fail@/SYS/SPPx/FPGA
fault.chassis.device.fail@/SYS/SPPx
```

回避方法: SP のログに記録された障害に関連する SPP をただちに再起動します。

1. SPP を停止します。

```
-> stop -f /SYS/SPPx
```

2. 少なくとも 2 分待ちます。
3. SPP を起動します。

```
-> start /SYS/SPPx
```

4. SPP がホストを起動できる状態になったことを検証します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
sp_name = /SYS/SPPx
```

SPP の準備ができていない場合、sp_name プロパティには値がありません。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
```

sp_name = (none)

ドキュメントの既知の問題

次の問題が、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーに関する既知のドキュメントの問題です。

- [62 ページの「複数ディスプレイはサポートされていない」](#)

複数ディスプレイはサポートされていない

『*SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバー管理ガイド*』では、複数のディスプレイデバイスを構成する手順が説明されています。現時点では、複数ディスプレイ機能は使用できません。

システムファームウェア 9.1.2 で解決される問題

このセクションでは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.2 以降をインストールすると解決される問題について説明します。

注記 - ドキュメントに以前に記載されていない追加の問題もシステムファームウェア 9.1.2 以降をインストールすることによって解決されます。ファームウェアのダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

- [63 ページの「解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 \(FW 9.1.2\)」](#)
- [64 ページの「解決される Oracle ILOM の問題 \(FW 9.1.2\)」](#)

解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.2)

注記 - システムファームウェアのアップグレードで、多くの問題を解決できます。ただし、システムファームウェアをアップグレードしないという選択肢も可能です。このような場合のため、問題の説明はそのままですが、特定のシステムファームウェアアップグレードで解決されることを示す注釈が先頭に付けられています。

これらの問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.2 以降をインストールしてください。システムファームウェア 9.1.2 以降にアップグレードしない場合、これらの問題は解決されません。

CR 番号	リンク:
17271667	64 ページの「障害によって SSB の電源が切断されると、CMU に障害が発生する (17271667)」
17032002	64 ページの「クロックボードが故障すると、クロックボードとすべての SSB に障害が発生する (17032002)」

解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.2)

これらは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると解決される Oracle ILOM の問題です。

- 64 ページの「障害によって SSB の電源が切断されると、CMU に障害が発生する (17271667)」
- 64 ページの「クロックボードが故障すると、クロックボードとすべての SSB に障害が発生する (17032002)」

障害によって SSB の電源が切断されると、CMU に障害が発生する (17271667)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.2 以降をインストールしてください。

サーバーが 1 つ以上の拡張ホストで構成され、SSB の電源を切断させるハードウェアの不具合がある場合、最終的に、すべての拡張ホストに致命的なエラーが発生します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

クロックボードが故障すると、クロックボードとすべての SSB に障害が発生する (17032002)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.2 以降をインストールしてください。

クロックボードが故障すると、すべてのホストは稼働を停止し、クロックボードに障害が発生します。ただし、拡張ホストが構成されている場合は、すべての SSB および CMU にも障害が発生します。この状況は、`show /SP/faultmgmt` コマンドで検証できます。次に例を示します。

```
-> show /SP/faultmgmt
/SP/faultmgmt
Targets:
  shell
```



```
0 (/SYS/CLOCK0)
1 (/SYS/CMU0)
2 (/SYS/CMU3)
3 (/SYS/CMU4)
4 (/SYS/CMU7)
5 (/SYS/CMU8)
6 (/SYS/CMU9)
7 (/SYS/CMU10)
8 (/SYS/CMU11)
9 (/SYS/CMU12)
10 (/SYS/CMU13)
11 (/SYS/CMU14)
12 (/SYS/SSB0)
13 (/SYS/SSB1)
14 (/SYS/SSB2)
15 (/SYS/SSB3)
16 (/SYS/SSB4)
17 (/SYS/SSB5)
18 (/SYS/SSB6)
19 (/SYS/SSB7)
20 (/SYS/SSB8)
21 (/SYS/SSB9)
22 (/SYS/SSB10)
23 (/SYS/SSB11)
->
```

回避方法: SSB および CMU からすべての障害をクリアします。すべてのホストが起動したあとで、システムは第 2 クロックボードにフェイルオーバーします。障害の発生したクロックボードを交換します。

システムファームウェア 9.1.1 で解決される問題

このセクションでは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールすると解決される問題について説明します。

注記 - ドキュメントに以前に記載されていない追加の問題もシステムファームウェア 9.1.1 以降をインストールすることによって解決されます。ファームウェアのダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

- [67 ページの「解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 \(FW 9.1.1\)」](#)
- [68 ページの「解決される一般的な問題 \(FW 9.1.1\)」](#)
- [70 ページの「解決される Oracle ILOM の問題 \(FW 9.1.1\)」](#)
- [82 ページの「解決される Oracle Solaris の問題 \(FW 9.1.1\)」](#)

解決される M6-32 および SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.1)

注記 - システムファームウェアのアップグレードで、多くの問題を解決できます。ただし、システムファームウェアをアップグレードしないという選択肢も可能です。このような場合のため、問題の説明はそのままですが、特定のシステムファームウェアアップグレードで解決されることを示す注釈が先頭に付けられています。

システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールすると、これらの問題が解決します。システムファームウェア 9.1.1 以降にアップグレードしない場合、これらの問題は解決されません。

CR 番号	リンク:
18169500	71 ページの「不明なベンダー ID 0x55 により M6 POST でファンに障害が発生する」
17861184	71 ページの「ピンスペアリング時に bad_chip_reg に誤った値が書き込まれる (17861184)」

CR 番号	リンク:
17328848	82 ページの「ldmpower コマンドで間違った消費電力が報告される (17328848)」
17298297	72 ページの「一部のプロパティで Tab キーによるオートコンプリートが行われない (17298297)」
17290213	72 ページの「ドメイン電力割り当てページに表示される割り当て電力の合計が正しくない (17290213)」
17278718	73 ページの「ボッドは、ドメインの回復前にリモートボッドが準備できていることを確認するべきである (17278718)」
17271326	74 ページの「Oracle ILOM が同じ DCU 内での CPU の混在について断続的に報告する (17271326)」
17259357	74 ページの「Oracle ILOM が報告する available_power プロパティの値が正しくない (17259357)」
17258806	75 ページの「共有コアのコア再マップ後の PAD のパフォーマンス低下 (17258806)」
17237954	76 ページの「ereport.chassis.post.mem.test-fail@BOB による誤診の生成 (17237954)」
17031933	76 ページの「reset /System で競合するメッセージが表示される (17031933)」
16948916	77 ページの「SNMP entityMIB で HDD 情報が表示されない (16948916)」
16943065	78 ページの「/HOST0 の PDomain-SPP で /HOST/VPS にサブターゲットがない (16943065)」
16908349	78 ページの「電源投入時にスタンバイ状態のキースイッチがホストの電源を切断する (16908349)」
16679878	80 ページの「ファームウェアのアップグレード後、Oracle ILOM が SNMP エラーを報告する (16679878)」
16589814	80 ページの「電源サイクル後に AC 入力障害がクリアされない (16589814)」

解決される一般的な問題 (FW 9.1.1)

これは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールすると解決される一般的な問題です。

- [68 ページの「使用できないシステムのリセット」](#)
- [69 ページの「電源管理が機能不全」](#)

使用できないシステムのリセット

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

現時点では、Oracle ILOM の `reset /System` コマンドを使用したシステムのリセットは信頼できず、失敗する可能性があります。

別の方法としてすべてのホストをリセットすれば、実質的にシステム全体がリセットされます。

- **Oracle ILOM CLI** での操作 – すべてのホストに対して `reset /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST` コマンドを使用します。ここで、*X* は 0、1、2、および 3 です。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースでの操作 – 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択し、ナビゲーションペインで「Host Management」->「Power Control」をクリックします。「Select Action」ドロップダウンメニューから「Reset」を選択し、「Save」をクリックします。その他の 3 つのドメイン (ホスト) について繰り返します。

パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。(17031933)

電源管理が機能不全

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Oracle ILOM CLI と Web インタフェースの両方で、割り当てられた電力の値と使用可能な電力の値が誤って報告されています。そのため、これらの値を使用して、サーバーに電力を供給したり、サーバーまたは PDomain に割り当てられている電力や消費可能な電力を見積もった場合、最終的に予期しない電源切断状況に陥る可能性があります。

PDomain の電力上限に対する違反アクションが緊急電源停止に設定されている場合、PDomain は予期せずに電源が切断されたり、電力の投入が妨げられたりします。(17328848)、(17290213)、(17259357)

違反アクションをデフォルトのなしの値に設定し、電力割り当てを無効にすると、このような予想外の状況を回避できます。これらのタスクは、Oracle ILOM CLI からでも Oracle ILOM Web インタフェースからでも実行できます。

Oracle ILOM CLI の場合:

1. 電力割り当てを無効にします。

-> `cd /Servers/PDomains/PDomain_X/SP/powermgmt/budget`

-> **set activation_state=disabled**

ここで、 x は影響を受ける PDomain の番号 (0、1、2、または 3) です。

2. 違反アクションをなしに設定します。

-> **set pendingviolation_actions = none**

-> **set commitpending=true**

Oracle ILOM Web インタフェースの場合:

1. 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択します。
2. ナビゲーションペインで「Power Management」->「Limit」をクリックします。
3. 「Power Limiting」チェックボックスのチェックマークを外します。
4. 「Violation Actions」ドロップダウンメニューから「None」を選択します。
5. 「Save」をクリックします。

解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.1)

これらは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると解決される Oracle ILOM の問題です。

- 71 ページの「ピンスペアリング時に `bad_chip_reg` に誤った値が書き込まれる (17861184)」
- 72 ページの「一部のプロパティで Tab キーによるオートコンプリートが行われない (17298297)」
- 72 ページの「ドメイン電力割り当てページに表示される割り当て電力の合計が正しくない (17290213)」
- 73 ページの「ポッドは、ドメインの回復前にリモートポッドが準備できていることを確認するべきである (17278718)」
- 74 ページの「Oracle ILOM が同じ DCU 内での CPU の混在について断続的に報告する (17271326)」
- 74 ページの「Oracle ILOM が報告する `available_power` プロパティの値が正しくない (17259357)」
- 75 ページの「共有コアのコア再マップ後の PAD のパフォーマンス低下 (17258806)」
- 76 ページの「`ereport.chassis.post.mem.test-fail@BOB` による誤診の生成 (17237954)」

- 76 ページの「reset /System で競合するメッセージが表示される (17031933)」
- 77 ページの「SNMP entityMIB で HDD 情報が表示されない (16948916)」
- 78 ページの「/HOST0 の PDomain-SPP で /HOST/VPS にサブターゲットがない (16943065)」
- 78 ページの「電源投入時にスタンバイ状態のキースイッチがホストの電源を切断する (16908349)」
- 80 ページの「ファームウェアのアップグレード後、Oracle ILOM が SNMP エラーを報告する (16679878)」
- 80 ページの「電源サイクル後に AC 入力障害がクリアされない (16589814)」

不明なベンダー ID 0x55 により M6 POST でファンに障害が発生する

予期しないベンダー ID が原因で、一部の交換用ファンモジュールで障害が発生する可能性があります。スケーラビリティカードケース内のファンモジュールスロットが、もっとも影響を受けます。スロット番号は FM16、FM17、FM18、および FM19 です。

ファンケース内のファンモジュールスロットへの影響度はそれほどではなく、予期しないベンダー ID に関するエラーレポートが生成されます。

回避方法: この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1.b 以降をインストールしてください。

ピンスペアリング時に bad_chip_reg に誤った値が書き込まれる (17861184)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

SPARC M6 Xoption CMU でアップグレードされ、システムファームウェアバージョン 9.1.0.x 以前を実行している SPARC M6-32 サーバーおよび SPARC M5-32 サーバーで、メモリーチップの障害が発生すると Oracle Solaris で問題が発生することがあります。

回避方法: できる限り早く、システムファームウェア 9.1.1.a 以降にアップグレードしてください。

一部のプロパティで Tab キーによるオートコンプリートが行われない (17298297)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Tab キーを使って次のコマンドをオートコンプリートするときに、Oracle ILOM CLI プロンプトがハングアップすることがあります。

- `show /Servers/PDomains/PDomain_x/System/
actual_power_consumption`
- `show /Servers/PDomains/PDomain_x/System/ action`

回復方法: Ctrl + C を押して、CLI プロンプトに戻ります。

回避方法: `actual_power_consumption` および `action` プロパティのオートコンプリートには、Tab キーを使用しないでください。

ドメイン電力割り当てページに表示される割り当て電力の合計が正しくない (17290213)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Oracle ILOM Web インタフェースの「Manage」リストボックスから「Domain」を選択すると、その PDomain に関する情報が「Summary」ページにリロードされます。ナビゲーションペインで「Power Management」->「Allocation」をクリックすると、「Power Allocation Plan」ページが表示されます。「Per Component Power Map」テーブルの最初の行に表示される割り当てられている電力の合計が、実際に割り当てられている電力の 2 倍になっています。

回避方法: 同じページの「System Power Specification」テーブルの「Allocated Power」行に正しい値が表示されています。

ポッドは、ドメインの回復前にリモートポッドが準備できていることを確認するべきである (17278718)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

AC 電源が完全に失われたあとのホストの自動回復で、電力損失前に稼働していた、ホストに割り当てられている 1 つ以上の DCU で回復が成功しないことがあります。ホストコンソールで `show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console/history` コマンドを使用して、問題のある DCU の起動を識別するホストの起動メッセージをモニターしてください。次に例を示します。

```
2013-08-06 16:51:37    SP> NOTICE:      ERROR: /SYS/SPP1 controlling /SYS/DCU1 is not
ready. Try again later.
2013-08-06 16:52:12    SP> NOTICE:    Check for usable CPUs in /SYS/DCU0
2013-08-06 16:52:33    SP> NOTICE:    Apply configuration rules to /SYS/DCU0
2013-08-06 16:53:29    SP> NOTICE:      ERROR: /SYS/SPP1 controlling /SYS/DCU1 is not
ready. Try again later.
2013-08-06 16:53:36    SP> NOTICE:    Check for usable CPUs in /SYS/DCU2
```

回避方法: 電源が切断されているホストを判断します。

- Oracle ILOM CLI で - `show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST status_detail` と入力します。

次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
status_detail
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
status_detail = 20130816 11:49:00: Host is off
```

ここで、*x* は 0、1、2、または 3 です。

- Oracle ILOM Web インタフェースで - 「Manage」リストボックスで「Domain」を選択し、ナビゲーションペインの「System Information」->「Summary」を選択します。「Actions」ペインに「Power State」が表示されます。

ホストを手動で起動します。

- Oracle ILOM CLI で - `start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST` と入力します。ここで、*x* は 0、1、2、または 3 です。

- **Oracle ILOM Web** インタフェースで - 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択し、ナビゲーションペインで「Host Management」->「Power Control」をクリックします。「Select Action」ドロップダウンメニューから「Power On」を選択し、「Save」をクリックします。

Oracle ILOM が同じ DCU 内での CPU の混在について断続的に報告する (17271326)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

AC 電源サイクル前にホストが動作可能であった場合、AC 電源サイクル後にホストは動作可能な状態に復帰します。ホストが起動すると、そのホストに割り当てられた各 DCU は構成チェックを受けます。DCU の構成チェックは断続的に失敗することがあります。ホストに割り当てられたすべての DCU が構成チェックに失敗した場合、ホストは完全には動作可能な状態に復帰しません。ホストの起動は、`show /Servers/PDomains/PDomain_x/console` コマンドでモニターできます。この状況は、次の出力のいずれかで識別されます。

```
2013-08-05 15:32:13    SP> NOTICE: Check for usable CPUs in SYS/DCU0
2013-08-05 15:32:17    SP> NOTICE: Apply configuration rules to /SYS/DCU0
2013-08-05 15:32:17    SP> NOTICE: Exclude all of /SYS/DCU0. Reason: Mixing M5 and M6
                        CPUs in the same DCU
```

```
2013-08-05 15:32:13    SP> NOTICE: Check for usable CPUs in SYS/DCU0
2013-08-05 15:32:17    SP> NOTICE: Apply configuration rules to /SYS/DCU0
2013-08-05 15:32:17    SP> NOTICE: Exclude all of /SYS/DCU0. Reason: Mixing M5 and M6
                        HDDBP/BaseIO cards in the same DCU
```

回復方法: ホストを停止して再起動します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。ホストの再起動が成功しない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダに問い合わせサポートを依頼してください。

Oracle ILOM が報告する `available_power` プロパティの値が正しくない (17259357)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

一定の電力定格を持つすべての動作可能な電源装置の合計が 65536 ワットを超えた場合、Oracle ILOM が表示する使用可能な電力は 65536 ワットを超えた分の数値になります。

たとえば、各電源装置の使用可能な電力仕様が 7000 ワットであり、10 台の電源装置が動作可能である場合、使用可能な総電力は 70000 ワットです。しかし、表示される使用可能な総電力は、70000 ワットから 65536 ワットを引いた 4464 ワットになります。

回避方法: 動作可能な電源装置の台数に、電源装置 1 台の使用可能な電力を掛けて、使用可能な電力を算出してください。

共有コアのコア再マップ後の PAD のパフォーマンス低下 (17258806)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

まれに起きる一部の vCPU エラー状況では、誤った電源状態のために、影響を受けたコアでの vCPU のアプリケーションパフォーマンスが低下することがあります。この状況には、次の条件が発現する必要があります。

- コアに関する ereprt (エラーレポート) が Oracle ILOM に表示され、ここにコアの障害が示されている。

注記 - Oracle ILOM 障害管理シェル内から `fmdump -e` コマンドを発行して、ereport (エラーレポート) を表示できます。

- vCPU に割り当てられたコアにおける変更からわかるように、Logical Domains Manager がコア再マップ操作を実行している。
- および次のどちらか:
 - 1 つ以上のゲストが Power-Aware Dispatcher (PAD) をサポートしていない複数のゲスト間で、新しく割り当てられたコアが分割されている。
 - コアが一部しか割り当てられず、コアの vCPU の一部がバインドされていない。

`powertop` コマンドで周波数が低下した vCPU を調べることにより、この状況を検証できます。

回避方法: ゲストドメインから vCPU を削除してバインド解除したあと、正しい電源状態に回復されるように vCPU を追加し直します。これを行うには、次の 2 とおりの方法があります。

- PDomain の電源を切って入れ直すか、ldmd コーティリティーを使用して影響を受けるゲストドメインを停止、バインド解除、バインド、および起動することによって、影響を受けるゲストドメインの電源サイクルを行います。
- `ldmd remove-cpu number ldom` コマンドで、影響を受けるすべての vCPU を削除したあと、`ldmd add-cpu number ldom` コマンドで vCPU を追加し直します。ここで、*number* は vCPU 番号で、*ldom* は論理ドメイン名です。

ereport.chassis.post.mem.test-fail@BOB による誤診の生成 (17237954)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

ereport.chassis.post.mem.test-fail@/SYS/CMU0/CMP0/BOB000 を生成したときに、障害のある FRU が CMU であるとする fault.memory.memlink@/SYS/CMU0/CMP0/BOB000 という単一のサスペクトも生成されます。なお、3 つのサスペクトがあり、そのうち 2 つが DIMM の障害という場合があります。

さらに、このような障害を発生する故障した、または取り付け不十分な DIMM は、影響を受ける CPU で fault.cpu.generic-sparc.c2c-prot-uc@/SYS/CMU8/CMP0 も生成することがあります。この CPU には異常が発生しますが、問題はありません。

回避方法: fault.memory.memlink@/SYS/CMU0/CMP0/BOB000 が生成されたら、ereport.chassis.post.mem.test-fail@BOB を調べ、ペイロードを探します。

TestTitle=DDR Command and Address Line Test

この出力が見つかった場合、BOB の 2 つの DIMM が疑わしく、確認するようにしてください。DIMM をソケットに取り付け、動作を確認します。障害が再発する場合は、DIMM を交換してください。それでも障害が再発する場合は、CMU を交換してください。

reset /System で競合するメッセージが表示される (17031933)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Oracle ILOM の `reset /System` コマンドを発行すると、表示される出力に、リセットが失敗したことが示される場合があります。次に例を示します。

```
-> reset /System
Are you sure you want to reset /System (y/n)? y
Performing reset on /System
reset: Command Failed
->
```

ただし、コマンドは成功している可能性があり、ホストの status プロパティの変更を表示することで確認できます。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST status
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Properties:
  status = Standby
->
```

回避方法: ホストの status プロパティに「Standby」と表示されていれば、「Command Failed」メッセージを無視できます。ただし、ホストの status プロパティに、リセットを試みる前の状態が表示されている場合は、すべてのホストを個々にリセットすることによりシステムをリセットしてください。次に例を示します。

```
-> reset /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

Command Failed メッセージが解消されない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

SNMP entityMIB で HDD 情報が表示されない (16948916)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

ハードディスクドライブの検出センサーがないので、Oracle ILOM の /SYS ターゲットの下に HDD ターゲットはありません。さらに、SNMP entityMIB はインベントリに HDD を含んでいません。これらの事実を念頭に置けば、HDD を取り付けたり取り外したりしても、TYPE_FRU_HOT_INSERT または TYPE_FRU_HOT_REMOVE システムイベントは生成されません。そのため、HDD に対して sunHwTrapFruInserted および sunHwTrapFruRemoved トラップを行うことはできません。

回避方法: HDD の取り外しおよび取り付けに関する情報は、/Servers/PDomains/PDomain_x/System/Storage/Disks ターゲットの下で確認できます。

/HOST0 の PDomain-SPP で /HOST/VPS にサブターゲットがない (16943065)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

/HOST0 の PDomain-SPP の Oracle ILOM CLI にログインした場合、/HOST/VPS ターゲットのサブターゲットまたはプロパティを一切表示できないことがあります。

回避方法: アクティブ SP の Oracle ILOM CLI にログインし、/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST/VPS ターゲットのサブターゲットおよびプロパティを表示します。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST/VPS
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST/VPS
Targets:
  history
Properties:
  type = Power Unit
  class = Threshold Sensor
  value = 0.000 Watts
.
.
.
```

電源投入時にスタンバイ状態のキースイッチがホストの電源を切断する (16908349)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Oracle ILOM では、ホストがブートプロセスのいずれかの手順にあるときに、ホストの `keyswitch_state` プロパティが `Standby` に設定されている場合、ホストはブートを正しく停止しますが、`keyswitch_state` プロパティは `Standby` に変更されません。次に例を示します。

```
-> cd /Servers/PDomians/PDomain_1/HOST
-> start
Are you sure you want to start /Servers/PDomians/PDomain_1/HOST (y/n)? y
Starting /HOST1
```

```

-> show keyswitch_state status status_detail
/Servers/PDomians/PDomain_1/HOST
Properties:
  keyswitch_state = Normal
  status = Powered On
  status_detail = 20130604 10:59:32: Start Host in progress: Step 4 of 9
-> set keyswitch_state=Standby
set: Cannot perform the requested operation yet; please try again later.
-> show keyswitch_state status status_detail
/Servers/PDomians/PDomain_1/HOST
Properties:
  keyswitch_state = Normal
  status = Standby
  status_detail = 20130604 11:00:31: Shutdown Host in progress
->

```

1 分後にホストの電源が切斷されます。

```

-> show keyswitch_state status status_detail
/Servers/PDomians/PDomain_1/HOST
Properties:
  keyswitch_state = Normal
  status = Powered Off
  status_detail = 20130604 11:01:32: Host is off
->

```

回避方法: ホストの電源が切斷され、keyswitch_state プロパティが Standby に設定されていることを検証します。

■ **Oracle ILOM CLI** で – 次のように入力します。

```

-> show status operation_in_progress
/Servers/PDomians/PDomain_1/HOST
Properties:
  status = Powered Off
  operation_in_progress = none
-> set keyswitch_state=Standby
Set 'keyswitch_state' to 'Standby'
->

```

■ **Oracle ILOM Web** インタフェースで – 「Manage」リストボックスから「Domain」を選択し、ナビゲーションペインで「Host Management」->「Power Control」をクリックします。ホストのステータスが表示されます。ナビゲーションペインで「Host Management」->「Keyswitch」をクリックし、「Keyswitch」ドロップダウンメニューから「Standby」を選択して「Save」をクリックします。

ファームウェアのアップグレード後、Oracle ILOM が SNMP エラーを報告する (16679878)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

Oracle Solaris の実行中にファームウェアのアップグレードまたは SPP のリセットを行なっているときに、アクティブ SP の Oracle ILOM イベントログに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
13444 Tue Apr 16 15:52:20 2013 System Log minor /SYS/SPP0: 16:
Apr 16 15:52:23 ERROR: Unable to connect to snmpd: No such file or directory
```

これらのメッセージは、SPP がオンラインに戻ったときの初期化期間に応じたものです。このメッセージは情報提供のみで、初期化が終了すると生成は停止します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

電源サイクル後に AC 入力障害がクリアされない (16589814)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

2 つの AC 電源グリッドの一方が故障した場合、Oracle ILOM によって障害が `fault.chassis.env.power.loss` として報告され記録されます。電源が回復されると、障害は自動的にクリアされます。一方の AC 電源グリッドが故障し、1 分以内に他方のグリッドが故障した場合、サーバーの電源が完全に切断されます。電源が回復しても、障害が自動的にクリアされない場合があります。

注記 - これらの障害は、情報提供のみを目的としたもので、サーバーの操作に影響はありません。

`/SYS/PSUX/V_PHASEY` Oracle ILOM ターゲットを使用すると、AC 電源の有無を検証できます。ここで、*x* は電源装置 (0 から 11) で、*y* は相 (0 から 2) です。次に例を示します。

-> show /SYS/PSU0/V_PHASE0 value


```

/SYS/PSU0/V_PHASE0
Properties:
  value = 119.062 Volts
->

```

回避方法: 手動で障害をクリアします。

1. Oracle ILOM 障害管理シェルを起動します。

```
-> start -script /SP/faultmgmt/shell
```

2. 障害を一覧表示します。

```
faultmgmtsp> fmadm faulty
```

3. 電力損失に影響する障害の UUID を記録します。

次に例を示します。

Time	UUID	msgid	Severity
2013-08-21/11:41:55	41722f02-81a7-eb98-e1cf-f3248259dacb	SPT-8000-5X	Major
.	.	.	.
Suspect 1 of 1			
Fault class	: fault.chassis.env.power.loss		
Certainty	: 100%		
Affects	: /SYS		
Status	: faulted		
.	.	.	.

障害クラスが `fault.chassis.env.power.loss` である障害の UUID は `041722f02-81a7-eb98-e1cf-f3248259dacb` です。

4. 障害を赦免します。

```
faultmgmtsp> fmadm acquit UUID
```

ここで、*UUID* は障害の UUID です。次に例を示します。

```
faultmgmtsp> fmadm acquit 41722f02-81a7-eb98-e1cf-  
f3248259dacb
```

5. すべての障害それぞれに手順 5 を繰り返します。
6. Oracle ILOM 障害管理シェルを終了します。

```
faultmgmtsp> exit  
->
```

解決される Oracle Solaris の問題 (FW 9.1.1)

これは、SPARC M6-32 および SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールすると解決される Oracle Solaris の問題です。

- [82 ページの「ldmpower コマンドで間違った消費電力が報告される \(17328848\)」](#)

ldmpower コマンドで間違った消費電力が報告される (17328848)

注記 - この問題を解決するには、システムファームウェア 9.1.1 以降をインストールしてください。

PDomain に複数の DCU が含まれる場合、Oracle VM Server for SPARC ソフトウェアのコマンド `ldmpower` で、論理ドメイン CPU ごとの消費電力が間違って報告されます。表示される CPU 消費電力値の合計は、表示されるプロセッサ電力値の合計と等しくありません。次に例を示します。

```
# ldmpower  
Processor Power Consumption in Watts  
DOMAIN      15_SEC_AVG      30_SEC_AVG      60_SEC_AVG  
primary      916                  923              929  
guest1       912                  920              925  
#
```

論理ドメイン CPU の電力の合計は、 $916 + 912 = 1828$ ワットです。`ldmpower` コマンドの `-p` オプションは、PDomain が消費する総電力の項目別リストを表示します。次に例を示します。

ldmpower -p

Resource Power Consumption in Watts

TYPE	15_SEC_AVG	30_SEC_AVG	60_SEC_AVG
System	9312	9328	9333
Processors	3857	3865	3875
Memory	4968	4968	4968
Fans	492	492	492

#

プロセッサ電力の合計は 3857 ワットであり、1828 ワットと等しくありません。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

システムファームウェア 9.1.0 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)

このセクションでは、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると解決される問題について説明します。

注記 - ドキュメントに以前に記載されていない追加の問題もシステムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすることによって解決されます。ファームウェアのダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

- [85 ページの「解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 \(FW 9.1.0\)」](#)
- [86 ページの「解決される一般的な問題 \(FW 9.1.0\)」](#)
- [87 ページの「解決される Oracle ILOM の問題 \(FW 9.1.0\)」](#)

解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.1.0)

注記 - システムファームウェアのアップグレードで、多くの問題を解決できます。ただし、システムファームウェアをアップグレードしないという選択肢も可能です。このような場合のため、問題の説明はそのままですが、特定のシステムファームウェアアップグレードで解決されることを示す注釈が先頭に付けられています。

システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、これらの問題が解決します。システムファームウェア 9.1.0 以降にアップグレードしない場合、これらの問題は解決されません。

CR 番号	リンク:
17343217	87 ページの「TPM ハードウェアエラー (17343217)」
17324447	88 ページの「アップグレードしたファームウェアが電源の入っているホストに伝播する (17324447)」
17308087	88 ページの「ライブファームウェアアップグレードおよび <code>reset /System</code> コマンドの実行後にホストがハングアップする (17308087)」

CR 番号	リンク:
17294574	89 ページの「start /System コマンドの発行時に、Internal error メッセージが表示される (17294574)」
17291912	90 ページの「/HOST0 に DCU がない場合、ホストの operation_in_progress プロパティがリセット状態のまま変わらない (17291912)」
17279121	91 ページの「LFESR がゼロの場合、BX ereport (エラーレポート) が生成される (17279121)」
17237386	86 ページの「ファームウェアアップグレードがプロセッサ電源管理に影響する」
17221526	91 ページの「ホストのリセット後の電源投入時での致命的な構成エラー (17221526)」
17031777	86 ページの「ファームウェアアップグレードがプロセッサ電源管理に影響する」
15812783	92 ページの「Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に SP0 がプライマリブートストラップでハングアップ (15812783)」

解決される一般的な問題 (FW 9.1.0)

これは、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると解決される一般的な問題です。

■ [86 ページの「ファームウェアアップグレードがプロセッサ電源管理に影響する」](#)

ファームウェアアップグレードがプロセッサ電源管理に影響する

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

Oracle VM Server for SPARC、Oracle Solaris 11、および Hypervisor は連携して、システムがアイドル状態のときに CPU の周波数を低下させることにより電力を節約します。システムファームウェア 9.0.2 以降にアップグレードすると、使用する周波数のセットが変更されます。Oracle Solaris 11 の `powertop` コマンドで周波数を表示できます。ファームウェアのアップグレード後、周波数の変更を有効にするために、各 PDomain のホストを停止してから起動する必要があります。(17237386)(17031777)

解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.1.0)

これらは、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると解決される Oracle ILOM の問題です。

- 87 ページの「TPM ハードウェアエラー (17343217)」
- 88 ページの「アップグレードしたファームウェアが電源の入っているホストに伝播する (17324447)」
- 88 ページの「ライブファームウェアアップグレードおよび `reset /System` コマンドの実行後にホストがハングアップする (17308087)」
- 89 ページの「`start /System` コマンドの発行時に、`Internal error` メッセージが表示される (17294574)」
- 90 ページの「`/HOST0` に DCU がいない場合、ホストの `operation_in_progress` プロパティがリセット状態のまま変わらない (17291912)」
- 91 ページの「`LFESR` がゼロの場合、`BX ereport` (エラーレポート) が生成される (17279121)」
- 91 ページの「ホストのリセット後の電源投入時での致命的な構成エラー (17221526)」
- 92 ページの「Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に `SP0` がプライマリブートストラップでハングアップ (15812783)」

TPM ハードウェアエラー (17343217)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

サーバーシステムファームウェアのバージョン 9.0.2.e または 9.0.2.h へのライブファームウェアアップグレードを実行する場合、アップグレード前に、電源の入っているすべてのホストの停止と再起動を実行する必要があります。次に例を示します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
-> start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
->
```

停止させて再起動したあと、ホストコンソールに TPM ハードウェアエラーが表示される場合があります。次に例を示します。

WARNING: TPM hardware error

TPM デバイスが無効になっています。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

アップグレードしたファームウェアが電源の入っているホストに伝播する (17324447)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

ほかのプラットフォームでファームウェアをアップグレードした場合、新しいファームウェアを初期化し稼働させるには、そのプラットフォームを再起動するか、電源を切って入れ直す必要があります。これは、サーバーでシステムファームウェアをアップグレードしたときに、ホストに対して予想される動作です。

ライブファームウェアアップグレードで、サーバーのシステムファームウェアをバージョン 9.0.2.e または 9.0.2.h にアップグレードした場合、電源の入っているホストが、リセットも再起動も行わないのに、アップグレードしたファームウェアを予想外に受信し実装します。再起動するまで、ホストはファームウェアが不確定な状態になります。

また、以前のファームウェアバージョンをホストで保持する方法也没有ありません。

回避方法: 電源の入っているホストを停止させてから再起動して、ホスト上で新しいファームウェアを正しく初期化する必要があります。次に例を示します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
-> start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
->
```

ライブファームウェアアップグレードおよび reset / System コマンドの実行後にホストがハングアップする (17308087)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

ライブファームウェアアップグレードで、サーバーのシステムファームウェアをバージョン 9.0.2.e または 9.0.2.h にアップグレードし、`reset /System` コマンドでシステムをリセットするか、`reset /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST` コマンドでホストをリセットした場合、コマンドがハングアップする可能性があります。

回避方法: 影響を受けたホストを停止してから起動します。次に例を示します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
-> start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
->
```

start /System コマンドの発行時に、Internal error メッセージが表示される (17294574)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

SP を工場出荷時の初期設定にリセットし、リセット後に `start /System` コマンドを発行すると、起動が失敗したことを示す出力がコンソールに表示されることがあります。次に例を示します。

```
-> start /System
start: Failed to start /System
start
/HOST0: Starting
/HOST1: Internal error
/HOST2: Starting
/HOST3: Internal error
```

ただし、コマンドは成功している可能性があり、ホストごとに `status_detail` プロパティを表示して確認できます。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST status_detail
/Servers/PDomains/PDomain_1/HOST
Properties:
status_detail = 20130809 18:20:15: Start Host in progress: Step 1 of 9
```

回避方法: 各ホストの `status_detail` プロパティに、「Start Host in progress」や、操作が成功したことを示すほかの出力が表示されていれば、「Failed to start /System」というメッセージを無視できます。いずれかのホストの `status_detail` プロパ

ティーで障害が示されている場合は、すべてのホストを個々に起動することによってシステムを起動します。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

/HOST0 に DCU がない場合、ホストの operation_in_progress プロパティーがリセット状態のまま変わらない (17291912)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

/HOST0 がオフのときにシステムをリセットした場合、リセットは失敗し、ホストの operation_in_progress プロパティーが Host reset in progress 状態のまま変わらないことがあります。そのため、ホストの起動や DCU の割り当てなど、ホストのほかの操作ができなくなることがあります。次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST status
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Properties:
  status = Powered Off
-> reset /System
Are you sure you want to reset /System (y/n)? y
Performing reset on /System
reset: Command Failed
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST operation_in_progress
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Properties:
  operation_in_progress = Host reset in progress
-> start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
start: Operation not allowed while forced reset of host is in progress.
-> set dcus_assigned="/SYS/DCU0 /SYS/DCU2"
set: Operation not allowed while forced reset of host is in progress.
```

回復方法: アクティブ SP をリセットします。

- Oracle ILOM CLI で **reset /SP** と入力します。
- Oracle ILOM Web インタフェースで - 「Manage」リストボックスから、「SP」を選択し、ナビゲーションペインで「ILOM Administration」-> 「Maintenance」をクリックします。「Reset SP」タブをクリックし、「ResetSP」をクリックします。

回避方法: ホストを個々にリセットします。

- Oracle ILOM CLI で – **reset /Servers/PDomains/PDomain_x/**
HOST と入力します。ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。
- Oracle ILOM Web インタフェースで – 「Manage」リストボックスから各「Domain」を選択し、ナビゲーションペインで「Host Management」->「Power Control」をクリックします。「Select Action」ドロップダウンメニューから「Reset」を選択し、「Save」をクリックします。

LFESR がゼロの場合、BX ereport (エラーレポート) が生成される (17279121)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

拡張ホストで 1 つの致命的なエラーが発生すると、発生した致命的エラーを識別する ereport (エラーレポート) を除き、その致命的なエラーに関連するすべての ereport (エラーレポート) に文字列 `c2c-link-cease-op` が含まれるはずです。

追加の ereport (エラーレポート) が存在する場合、これらの ereport (エラーレポート) により、復旧時に複数のコンポーネントを構成解除する複数の障害診断が行われることがあります。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

ホストのリセット後の電源投入時での致命的な構成エラー (17221526)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

拡張ホストをリセットした結果、自動回復中に致命的な構成エラーが発生します。この状況は、ホストのリセット後にホストコンソールで表示される同様の出力で認められます。

```
2013-07-25 11:37:22      SP> NOTICE:  Start Host in progress: Step 5 of 9
2013-07-25 11:37:47      SP> NOTICE:  Start Host in progress: Step 6 of 9
2013-07-25 11:37:45    3:0:0> ERROR:    /SYS/CMU1/CMP1/SLINK1: Failed to train
2013-07-25 11:37:45    2:0:0> ERROR:    /SYS/CMU1/CMP0/SLINK1: Failed to train
2013-07-25 11:37:45   10:0:0> ERROR:    /SYS/CMU5/CMP0/SLINK1: Failed to train
2013-07-25 11:37:45   11:0:0> ERROR:    /SYS/CMU5/CMP1/SLINK1: Failed to train
```

```
2013-07-25 11:37:46 18:0:0> ERROR: /SYS/CMU9/CMP0/SLINK1: Failed to train
2013-07-25 11:37:46 19:0:0> ERROR: /SYS/CMU9/CMP1/SLINK1: Failed to train
2013-07-25 11:37:46 0:0:0> FATAL: SL links failed to initialize
2013-07-25 11:37:46 0:0:0> FATAL: Fatal configuration error
.
.
.
```

回避方法: ホストを停止して起動します。次に例を示します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
-> start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST (y/n)? y
->
```

Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に SP0 がブライマリブートストラップでハングアップ (15812783)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

ファームウェアの更新後に、SP または SPP がリセットから復帰しないことがまれにあります。SP がリセット状態のままになっていることは、「Primary Bootstrap」というメッセージが表示されたあとにすべてのコンソールアクティビティーが停止するときにわかります。SPP がリセット状態のままになっていることは、ほかのすべての SPP がリセットから復帰したあと、SPP がシステムに存在していると認識されないときにわかります。

影響を受けている SPP のほかの症状として、ホストの起動または停止ができないことや、アクティブ SP からコンソールセッションを開始できないことがあります。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST (y/n)? y
start: Cannot perform the requested operation yet; please try again later.
->

-> start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST/console
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST/console (y/n)? y
reconnecting to console...
reconnecting to console...
reconnecting to console...
...
```

影響を受けている SPP がインベントリに現れるが、SPP FRU プロパティーがない場合もあります。次に例を示します。

```
-> show /SYS/SPP1 fru_part_number
show: No matching properties found.
->
```

回避方法: 問題となっている SP または SPP を再度リセットしたり、電源を切って入れ直したりすることで、動作を復元します。これを実行する方法は 3 つあります。

- 使用可能な SP がある場合は、Oracle ILOM にログインし、`reset -f /SYS/SPx` または `reset -f /SYS/SPPx` コマンドを入力します。ここで、*x* は適切な SP または SPP の番号です。
- Oracle ILOM にログインできない場合は、リセット状態のままになっている SP または SPP のホットプラグを実行します。
- 前述の方法が失敗する場合は、サーバーの電源を切って入れ直します。

コンポーネントのホットプラグ手順およびサーバーの電源再投入手順については、『*SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバースervice マニュアル*』を参照してください。

システムファームウェア 9.0.2 で解決される問題 (SPARC M5-32 サーバーのみ)

このセクションでは、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される問題について説明します。

注記 - ドキュメントに以前に記載されていない追加の問題もシステムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすることによって解決されます。ファームウェアのダウンロードに含まれる README ファイルを参照してください。

- [95 ページの「SPARC M5-32 サーバーの直接 I/O 機能」](#)
- [96 ページの「解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 \(FW 9.0.2\)」](#)
- [98 ページの「解決される一般的な問題 \(FW 9.0.2\)」](#)
- [100 ページの「解決される直接 I/O の問題 \(FW 9.0.2\)」](#)
- [103 ページの「解決される Oracle ILOM の問題 \(FW 9.0.2\)」](#)
- [130 ページの「解決される POST の問題 \(FW 9.0.2\)」](#)
- [131 ページの「解決される Oracle Solaris の問題 \(FW 9.0.2\)」](#)

SPARC M5-32 サーバーの直接 I/O 機能

注記 - この情報は、SPARC M5-32 サーバー専用です。

アップグレードされたソフトウェアとともにシステムファームウェア 9.0.2 以降をインストールして、直接 I/O 機能が単一 DCU と複数 DCU の両方の PDomain 構成でサポートされるようにします。複数 DCU PDomain 構成の直接 I/O サポートでは、次も必要です。

1. プライマリドメインを Oracle Solaris バージョン S11.1 SRU9 にアップグレードします。

このパッケージには、Oracle VM Server for SPARC バージョン 3.0.0.4 が含まれており、これもインストールする必要があります。

2. SP の Oracle ILOM ファームウェアをバージョン 3.2.1.4 にアップグレードします。

このファームウェアは、9.0.2 パッケージ内で提供されます。

注記 - 論理ドメインの構成と管理、および管理コマンドについては、『*Oracle VM Server for SPARC 管理ガイド*』を参照してください。

解決される SPARC M5-32 サーバーの問題 (FW 9.0.2)

注記 - システムファームウェアのアップグレードで、多くの問題を解決できます。ただし、システムファームウェアをアップグレードしないという選択肢も可能です。このような場合のため、問題の説明はそのままですが、特定のシステムファームウェアアップグレードで解決されることを示す注釈が先頭に付けられています。

システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、次の問題が解決します。システムファームウェア 9.0.2 以降にアップグレードしない場合、これらの問題は解決されません。

CR 番号	リンク:
16929532	104 ページの「実行中のファームウェアのアップグレード後にホスト再構成が失敗する (16929532)」
16707144	130 ページの「POST 時に断続的な <code>fault.cpu.generic-sparc.core</code> 障害が発生する (16707144)」
16674100	100 ページの「検証中にゲストドメインを停止すると、無効なバーが消えずに残る (16674100)」
16667457	105 ページの「電源の停止によってサーバーの再起動ができなくなることがある (16667457)」
16562755	106 ページの「PDomain-SPP <code>spsh</code> で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)」
16493074	106 ページの「「FATAL: Mutex time-out: Lock on I2C Bus Held by Node 0」のため起動が失敗する (16493074)」
16449509	108 ページの「DCU1 が割り当てられていないとき、SPP1 が PDomain-SPP として識別される (16449509)」
16441405	110 ページの「<code>start /SYS</code> フローにより、DCU_x、CMU_x、および SPP_x に対して「Failed to start」メッセージが表示される (16441405)」
16369763	111 ページの「DIMM の障害が自動修復されない (16369763)」
16291774	112 ページの「<code>/SYS/FOPNL0</code> の FRU 情報を出力できない (16291774)」
16287294	112 ページの「SPP のサポートされていないページへのリンクを削除する (16287294)」
16287241	113 ページの「アクティブ SP で KVMS ホストロック設定が正しく表示されない (16287241)」
16273415	99 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースでプロパティに「UNKNOWN」または「Not Available」が表示される」

CR 番号	リンク:
16272550	99 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースでプロパティに「UNKNOWN」または「Not Available」が表示される」
16270561	113 ページの「アクティブ SP で ipmitool 電源コマンドが動作しない (16270561)」
16239552	98 ページの「/System/Open_Problems リストに現在の状態が反映されない」
16239544	114 ページの「同じ名前を持つ複数の論理ドメイン構成ファイルが存在する場合、Oracle ILOM が混乱する (16239544)」
16239056	114 ページの「全点灯 (ALO) テストが機能しない (16239056)」
16238150	115 ページの「標高に基づくセンサーしきい値の動的変更とフェイルオーバー (16238150)」
16224893	115 ページの「ロケータボタンを押すと緑色の OK LED が低速の点滅から高速の点滅に変わる (16224893)」
16218833	116 ページの「set /System action で「Internal error」が表示される (16218833)」
16211935	130 ページの「/SP/diag trigger を複合値に設定できない (16211935)」
16205895	116 ページの「Oracle ILOM の電力上限機能は、調整更新を /SYS/VPS の更新と同期させる必要がある (16205895)」
16187909	117 ページの「autorunonerror=none の場合、start -f /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST の電源投入失敗から回復できない (16187909)」
16173883	101 ページの「堅牢な SPARC M5-32 SDIO 構成の SDIO ドメインが OpenBoot PROM プロンプトに到達しない (16173883)」
16172211	131 ページの「COU1 の MBIST 障害の障害イベントが表示されない (16172211)」
16098592	102 ページの「iov で貸し出されたデバイスが無効になっているとき、ゲストドメインをブートできない (16098592)」
16081398	118 ページの「ハイパーバイザは、PCIe ホットプラグによって追加されたカードの PCIe 情報を Oracle ILOM に通知する必要がある (16081398)」
16081138	118 ページの「ファームウェアのアップグレード後に空の fault.replay イベントが memlink-failover、c2c-lane-fail で表示される (16081138)」
16063607	119 ページの「/conf/webgo.conf は SPP にレプリケートされる必要がある (16063607)」
16062459	119 ページの「読み取り障害時にハイパーバイザがデバイスタイプを誤って読み取るため、親バスが検出されない (16062459)」
16059956	119 ページの「/Servers/.../SP/powermgmt/powerconf/ の下に PSU と SP が一覧表示されない (16059956)」
16019636	120 ページの「SSB プログラミングが完了したあとの、障害のある SSB のシステムエラー処理 (16019636)」
16018902	122 ページの「電源装置で電圧低下が断続的に検出される (16018902)」

CR 番号	リンク:
15936115	122 ページの「Oracle ILOM がアドイン PCI カードデータをハイパーバイザに再送信するように要求する (15936115)」
15834247	124 ページの「start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST で障害が報告されるが、ホストは正常にブートする (15834247)」
15826549	124 ページの「/SYS/SP0 のホットリムーブ中に SYSID0 デバイスが削除される (15826549)」
15823776	125 ページの「CLI で PDomain-SPP を設定しても gm に伝播されない (15823776)」
15820471	132 ページの「Oracle Solaris FMA (fault または defect).sunos.eft.unexpected_telemetry は診断されるべきではなかった (15820471)」
15816819	127 ページの「Oracle ILOM が物理キースイッチの Diag 位置または Service 位置を読み取らない (15816819)」
15795683	129 ページの「遅延転送が実行されなかった (15795683)」
15795058	129 ページの「Emulex rKVMS が SPARC クライアントからのストレージリダイレクションをサポートしていない (15795058)」

解決される一般的な問題 (FW 9.0.2)

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される一般的な問題です。

- [98 ページの「/System/Open_Problems リストに現在の状態が反映されない」](#)
- [99 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースでプロパティに「UNKNOWN」または「Not Available」が表示される」](#)

/System/Open_Problems リストに現在の状態が反映されない

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

/System/Open_Problems ターゲットは、Oracle ILOM CLI と Oracle ILOM Web インタフェースの両方で報告される、システムに存在する障害のキャッシュされたリストです。SP のブートまたは SP のフェイルオーバーのあとでこのキャッシュされたリストが正しく更新されず、そのため Open_Problems リストにシステムの本当の障害情報が反映されないことがあります。すでに存在していない障害が引き続き表示されることや、存在している障害がまったく表示されないことがあります。新しい障害が検出されたか、既存の障害が

修復されたときにだけ、リストが更新されて現在の情報が反映されます。障害の修復以外には、Open_Problems リストを更新するユーザーコマンドはありません。

回避方法: Oracle ILOM の `show faulty` コマンドか、Oracle ILOM 制限付きシェルの `fmadm faulty` コマンドを使用します。

これらのコマンドは、現在の障害情報を取得します。多数の障害が存在しているときに、SP のブートまたは SP のフェイルオーバーの直後にどちらかのコマンドを入力した場合、すべての障害がシステムに読み込まれていないため部分的なリストが返されることがあります。さらに 10 分待ってからコマンドを再入力すると、完全なリストを検証できます。
(16434329)(16239552)

Oracle ILOM Web インタフェースでプロパティーに「UNKNOWN」または「Not Available」が表示される

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

アクティブ SP または SPP の Oracle ILOM Web インタフェースでは、一部のプロパティーは適用不可のため、「UNKNOWN」または「Not Available」と表示されます。次に例を示します。

- 「**System Information**」->「**Power**」ペイン – 「Health」、「Health Details」、「Installed Power Supplies」、および「Maximum Power Supplies」は SPP に対して「Not Available」と表示されます。
- 「**System Information**」->「**Summary**」ペイン – 「Locator Indicator」は SPP に対して「UNKNOWN」と表示されます。
- 「**System Information**」->「**Summary**」ペイン – 選択されているコンポーネントがドメインの場合、SPP とアクティブ SP の両方に対して、「Status」テーブルの「Power Status」は「UNKNOWN」と表示され、「Inventory」は「Not Available」と表示されず。

プロパティーが「UNKNOWN」または「Not Available」と表示されるのは、その情報を取得するための対応する Oracle ILOM CLI 実装が存在しないためです。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。前述のプロパティーと「UNKNOWN」および「Not Available」の値は無視するようにしてください。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。(16273415)(16272550)

解決される直接 I/O の問題 (FW 9.0.2)

注記 - このドキュメントと BugDB の内容の間で整合性を保つため、「静的直接 I/O (SDIO)」という語句を使用して直接 I/O 機能を指します。直接 I/O に関する詳細については、『Oracle VM Server for SPARC 管理ガイド』に記載されています。

システムファームウェア 9.0.2 以降にアップグレードしない場合は、単一 DCU PDomain 構成のみが SDIO をサポートします。

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される直接 I/O の問題です。

- 100 ページの「[検証中にゲストドメインを停止すると、無効なバーが消えずに残る \(16674100\)](#)」
- 101 ページの「[堅牢な SPARC M5-32 SDIO 構成の SDIO ドメインが OpenBoot PROM プロンプトに到達しない \(16173883\)](#)」
- 102 ページの「[iov で貸し出されたデバイスが無効になっているとき、ゲストドメインをブートできない \(16098592\)](#)」

検証中にゲストドメインを停止すると、無効なバーが消えずに残る (16674100)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

PCI デバイスが SDIO によってゲストドメインに貸し出されている場合、ブート中にそのドメインが論理ドメインマネージャーによって強制的に停止されると、PCI デバイスが無効な状態のままになることがあります。

そのゲストドメインをリブートしたときに目に見える動作は、OpenBoot diag-switch? プロパティの値によって決まります。

- OpenBoot diag-switch? プロパティが false に設定されている場合、ゲストドメインは PCI デバイスの検証中に OpenBoot でハングアップします。
- OpenBoot diag-switch? プロパティが true に設定されている場合、OpenBoot は特定の PCI デバイスの検証中にメッセージ「Unable to assign fixed resources for device」を表示しますが、Oracle Solaris のブートを続行しようとします。次に例を示します。

NOTICE: Probing PCI devices.

```

/pci@3c0: Device 1 pci
/pci@3c0/pci@1: Device 0 pci
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 0 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 1 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 2 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 3 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 4 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 5 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 6 Nothing there
/pci@3c0/pci@1/pci@0: Device 7 pci
Unable to assign fixed resources for device

```

その後、検証に失敗したデバイスが正しく動作しなかったり、ゲストドメインが Oracle Solaris のブート中にハングアップしたりする可能性があります。

回避方法: PCI デバイスを所有する I/O ドメインをリブートします。ゲストドメインのブート時に `ldm stop -f` コマンドを使用しないで、問題が発生しないようにします。

堅牢な SPARC M5-32 SDIO 構成の SDIO ドメインが OpenBoot PROM プロンプトに到達しない (16173883)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

PCI デバイスは SDIO によってゲストドメインに貸し出すことができます。通常の使用中に貸し出されたデバイスで何らかの問題や障害が検出されると、Oracle Solaris プライマリドメインはハイパーバイザに通知せずにそのデバイスをリタイアします。

デバイスがリタイアされるため、Oracle Solaris プライマリドメインはそのデバイスの PCI アクセスを有効にするようにハイパーバイザに指示しなくなります。PCI デバイスの状態は不確定になります。

デバイスに関連付けられたゲストドメインがその後再起動すると、PCI デバイスの OpenBoot 検証中にゲストドメインがハングアップします。ハングアップは、ゲストドメインのコンソールにこのメッセージが最後に表示されることで識別されます。

NOTICE: Probing PCI devices

回避方法: 不確定な状態に遷移したデバイスをそのゲストドメインから削除します。Oracle Solaris プライマリドメインでこれらの手順を実行します。

1. 影響のあるゲストドメインを停止します。
2. `ldm rm-io` コマンドを使用して、不確定の状態にあるデバイスをゲストドメインから削除します。
3. ゲストドメインを再起動します。

ioV で貸し出されたデバイスが無効になっているとき、 ゲストドメインをブートできない (16098592)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

PCI デバイスがゲストドメインに貸し出されていて、そのデバイスが Oracle ILOM CLI または障害管理フレームワークによって無効としてマークされている状況を考えます。そのゲストドメインが含まれる PDomain が次回起動するときに、ハイパーバイザは PCI デバイスへのアクセスを無効にしてブロックしますが、制御ドメイン内の Oracle Solaris にそのアクションを通知できません。PCI デバイスの状態は不確定になります。

デバイスに関連付けられたゲストドメインがその後 Oracle Solaris プライマリドメインによって再起動すると、PCI デバイスの OpenBoot 検証中にゲストドメインがハングアップします。ハングアップは、ゲストドメインのコンソールにこのメッセージが最後に表示されることで識別されます。

NOTICE: Probing PCI devices

回避方法: 不確定な状態に遷移したデバイスをそのゲストドメインから削除します。Oracle Solaris プライマリドメインでこれらの手順を実行します。

1. 影響のあるゲストドメインを停止します。
2. `ldm rm-io` コマンドを使用して、不確定の状態にあるデバイスをゲストドメインから削除します。
3. ゲストドメインを再起動します。

注記 - 最初にデバイスが無効になった理由がわからない場合は、オラクル承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

解決される Oracle ILOM の問題 (FW 9.0.2)

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される Oracle ILOM の問題です。

- 104 ページの「実行中のファームウェアのアップグレード後にホスト再構成が失敗する (16929532)」
- 105 ページの「電源の停止によってサーバーの再起動ができなくなることがある (16667457)」
- 106 ページの「PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)」
- 106 ページの「「FATAL: Mutex time-out: Lock on I2C Bus Held by Node 0」のため起動が失敗する (16493074)」
- 108 ページの「DCU1 が割り当てられていないとき、SPP1 が PDomain-SPP として識別される (16449509)」
- 110 ページの「start /SYS フローにより、DCU_x、CMU_x、および SPP_x に対して「Failed to start」メッセージが表示される (16441405)」
- 111 ページの「DIMM の障害が自動修復されない (16369763)」
- 112 ページの「/SYS/FOPNL0 の FRU 情報を出力できない (16291774)」
- 112 ページの「SPP のサポートされていないページへのリンクを削除する (16287294)」
- 113 ページの「アクティブ SP で KVMS ホストロック設定が正しく表示されない (16287241)」
- 113 ページの「アクティブ SP で ipmitool 電源コマンドが動作しない (16270561)」
- 114 ページの「同じ名前を持つ複数の論理ドメイン構成ファイルが存在する場合、Oracle ILOM が混乱する (16239544)」
- 114 ページの「全点灯 (ALO) テストが機能しない (16239056)」
- 115 ページの「標高に基づくセンサーしきい値の動的変更とフェイルオーバー (16238150)」
- 115 ページの「ロケータボタンを押すと緑色の OK LED が低速の点滅から高速の点滅に変わる (16224893)」
- 116 ページの「set /System action で「Internal error」が表示される (16218833)」
- 116 ページの「Oracle ILOM の電力上限機能は、調整更新を /SYS/VPS の更新と同期させる必要がある (16205895)」
- 117 ページの「autorunonerror=none の場合、start -f /Servers/PDomains/PDomain__x/HOST の電源投入失敗から回復できない (16187909)」

- 118 ページの「ハイパーバイザは、PCIe ホットプラグによって追加されたカードの PCIe 情報を Oracle ILOM に通知する必要がある (16081398)」
- 118 ページの「ファームウェアのアップグレード後に空の `fault.replay` イベントが `memlink-failover`、`c2c-lane-fail` で表示される (16081138)」
- 119 ページの「`/conf/webgo.conf` は SPP にレプリケートされる必要がある (16063607)」
- 119 ページの「読み取り障害時にハイパーバイザがデバイスタイプを誤って読み取るため、親バスが検出されない (16062459)」
- 119 ページの「`/Servers/.../SP/powermgmt/powerconf/` の下に PSU と SP が一覧表示されない (16059956)」
- 120 ページの「SSB プログラミングが完了したあとの、障害のある SSB のシステムエラー処理 (16019636)」
- 122 ページの「電源装置で電圧低下が断続的に検出される (16018902)」
- 122 ページの「Oracle ILOM がアドイン PCI カードデータをハイパーバイザに再送信するように要求する (15936115)」
- 124 ページの「`start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST` で障害が報告されるが、ホストは正常にブートする (15834247)」
- 124 ページの「`/SYS/SP0` のホットリムーブ中に `SYSID0` デバイスが削除される (15826549)」
- 125 ページの「CLI で PDomain-SPP を設定しても `gm` に伝播されない (15823776)」
- 127 ページの「Oracle ILOM が物理キースイッチの Diag 位置または Service 位置を読み取らない (15816819)」
- 128 ページの「Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に `SP0` がプライマリブートストラップでハングアップ (15812783)」
- 129 ページの「遅延転送が実行されなかった (15795683)」
- 129 ページの「Emulex rKVMS が SPARC クライアントからのストレージリダイレクションをサポートしていない (15795058)」

実行中のファームウェアのアップグレード後にホスト再構成が失敗する (16929532)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

ホストの実行中に Oracle ILOM ファームウェアがアップグレードされ、アップグレード後にホストがシャットダウンした状況を考えてみます。これらのイベントのあと、DCU をホス

トに割り当てることができますが、sp_name プロパティの値が自動的に選択されずに (none) の値になっていることがあります。その結果、ホストまたは割り当てられた DCU の今後の管理に影響が出る可能性があります。

回避方法: sp_name プロパティの選択を手動でトリガーします。これを行うには、3 つの方法があります。

- アクティブ SP をリブートします。
- ホストを起動または再起動します。
- DCU を追加または削除してホストの dcus_assigned プロパティを変更します。これで、sp_name の選択が完了すると、希望の DCU 構成を再割り当てすることができます。

電源の停止によってサーバーの再起動ができなくなる ことがある (16667457)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle ILOM は、サーバーのチェックポイント状態を定期的に保存します。これらの条件の両方が満たされるときに AC 電源が失われたとします。

- 1 つまたは複数のホストの電源が入っています。
- これらのホストのうち 1 つで、ホストが起動していてその後リセットされました。

AC 電源が復元され、Oracle ILOM が動作状態になると、そのホストのチェックポイントの電源状態が正しくなくなります。そのため、任意のホストを再起動しようとしても成功しません。

回避方法: すべてのホストを停止し、すでに実行しているホストをすべて再起動します。

1. すべてのホストを停止します。

```
-> stop -f /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は 0、1、2、および 3 です。

2. ホストを再起動します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* はすでに実行しているホストの PDomain の番号です。

3. 再起動するすべてのホストについて手順 2 を繰り返します。

この手順でホストを再起動できない場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

PDomain-SPP spsh で誤ったコンソール履歴が表示される (16562755)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

いずれかの PDomain の PDomain-SPP にログインし、`/HOST/console/history` Oracle ILOM ターゲットを使用してコンソール履歴を表示しようとすると、常に PDomain_0 のものが出力に表示されます。

回避方法: アクティブ SP にログインし、各 PDomain のコンソール履歴を表示します。

-> `show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console/history`

ここで、*x* は PDomain の識別番号 (0 - 3) です。

「FATAL: Mutex time-out: Lock on I2C Bus Held by Node 0」のため起動が失敗する (16493074)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

起動処理中であったホストの強制停止を実行したあとで、ホストを再度起動しようとする
と、ホストがハングアップし、次のメッセージがコンソールとシステムログに表示されることが
あります。

FATAL: Mutex time-out: lock on I2C bus held by node *x* for more than 5 seconds

ここで、*x* は 0 - 7 です。

回避方法: ハングアップしたホストが含まれている PDomain 内のすべての SPP をリセット
します。

1. アクティブ SP で、ハングアップしたホストを停止します。

```
-> stop -f /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は影響を受ける PDomain を識別します。

2. 停止および起動する SPP を特定します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST dcus_assigned
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
dcus_assigned = /SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2 /SYS/DCU3
```

ここで、*x* は影響を受ける PDomain を識別します。

3. 手順 2 で特定された各 DCU を書きとめます。
各 /SYS/DCU_y には、対応する /SYS/SPP_y があります。
4. 手順 2 で特定された各 DCU に対応する SPP を停止します。

```
-> stop -f /SYS/SPPy
```

5. SPP の電源状態が off になっていることを検証します。

```
-> show /SYS/SPPy power_state
/SYS/SPPy
Properties:
power_state = Off
```

6. 手順 2 で特定された各 DCU について、手順 4 と手順 5 を繰り返します。
7. SPP を起動します。

```
-> start -f /SYS/SPPy
```

8. 手順 4 で停止した各 SPP について、手順 7 を繰り返します。
9. ホストを起動します。

```
-> start -f /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

ここで、*x* は影響を受ける PDomain を識別します。

DCU1 が割り当てられていないとき、SPP1 が PDomain-SPP として識別される (16449509)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

非常にまれに、/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST Oracle ILOM ターゲットの sp_name プロパティで識別される PDomain-SPP が、PDomain に実際に割り当てられている DCU のいずれでもない場合があります。この不一致のため、ホストの起動などの操作が失敗することがあります。

正しい PDomain-SPP が構成されているかどうかを次の手順で検証できます。

1. PDomain-SPP および PDomain に割り当てられている DCU を表示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
dcus_assigned
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
  sp_name = /SYS/SPP3
  dcus_assigned = /SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2
->
```

ここで、*x* は問題の PDomain の番号です。

2. PDomain-SPP と割り当てられている DCU を比較します。

この例では、PDomain-SPP は SPP3 です。しかし、対応する DCU3 は PDomain に割り当てられていません。DCU0、DCU1、および DCU2 だけが割り当てられているため、不一致があります。

注記 - sp_name プロパティは Oracle ILOM Web インタフェースでは表示できません。

回避方法: 正しい PDomain-SPP が構成されていることを確認します。

1. 誤った PDomain-SPP に関連付けられている DCU を一時的に割り当てます。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST dcus_assigned =
"/SYS/DCU3"
```

```
Set 'dcus_assigned' to '/SYS/DCU3'
```

```
->
```

ここで、*x* は問題の PDomain の番号です。

2. 60 秒待機します。
3. ホストを起動します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST (y/n)? y
```

```
->
```

4. ホストのブートプロセスをモニターします。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console
```

```
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console (y/n)? y
```

```
Serial console started. To stop, type #.
```

```
2013-04-03 16:35:58    SP> NOTICE: Check for usable CPUs in /SYS/DCU1
2013-04-03 16:35:58    SP> NOTICE: Apply configuration rules to /SYS/DCU1
2013-04-03 16:35:59    SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 1 of 9
2013-04-03 16:40:42    SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 2 of 9
2013-04-03 16:40:43    SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 3 of 9
```

```
.
.
.
```

5. 「Step 3 of 9」というテキストが表示されたら、**#.** と入力してコンソールを停止します。

```
2013-04-03 16:40:43    SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 3 of 9 #.
```

```
->
```

6. ホストを停止します。

```
-> stop -f /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Are you sure you want to stop /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST (y/n)? y
```

```
->
```

7. PDomain に正しい DCU を割り当て直します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST dcus_assigned = "/SYS/DCU0 /
SYS/DCU1 /SYS/DCU2"
```

```
Set 'dcus_assigned' to '/SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2'
```

```
->
```

8. 60 秒待機します。

9. PDomain に正しい PDomain-SPP が構成されていることを検証します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
dcus_assigned
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Properties:
```

```
sp_name = /SYS/SPP0
```

```
dcus_assigned = /SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2
```

```
->
```

10. PDomain-SPP と割り当てられている DCU を比較します。

この例では、PDomain-SPP は現在 SPP0 であり、PDomain に DCU0 が割り当てられているため、正しい構成になっています。あるいは、SPP1 または SPP2 でも正しい構成になります。

start /SYS フローにより、DCU_X、CMU_X、および SPP_X に対して「Failed to start」メッセージが表示される (16441405)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

stop コマンドを使用して /SYS Oracle ILOM ターゲットの下のコポーネントを停止する場合、失敗を示すメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。

```
-> stop -f /SYS/SPP1
```

```
Are you sure you want to immediately stop /SYS/SPP1 (y/n)? y
```

```
stop: Failed to stop /SYS/SPP1
```

同様に、/SYS ターゲットの下のコポーネントに start または reset コマンドを使用する場合も、失敗を示すメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。

```
-> start -f /SYS/SPP1
```

```
Are you sure you want to start /SYS/SPP1 (y/n)? y
```

```
start: Failed to start /SYS/SPP1
```

```
-> reset -f /SYS/SPP1
```

```
Are you sure you want to reset /SYS/SPP1 (y/n)? y
```

```
reset: Failed to reset /SYS/SPP1
```

回避方法: どの場合も、操作は成功するため、失敗メッセージは無視してかまいません。操作が成功していないと考えられる場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

DIMM の障害が自動修復されない (16369763)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

障害のある DIMM を既知の正常な DIMM に交換したあと、障害のある DIMM スロットを Oracle ILOM で自動修復できないことがまれにあります。

回避方法: 障害のある DIMM スロットを修復済み状態に手動で設定します。

1. Oracle ILOM で、障害管理シェルを起動します。

```
-> start -script /SP/faultmgmt/shell
```

```
faultmgmtsp>
```

2. 障害管理シェルで、自動修復に失敗した DIMM スロットを表示します。

```
faultmgmtsp> fmadm faulty -ra
```

```
...
```

```
/SYS/CMU8/CMP0/D00000
```

```
degraded
```

```
...
```

3. 障害のある DIMM スロットを修復します。

```
faultmgmtsp> fmadm repair DIMM_target
```

ここで、*DIMM_target* は障害のある DIMM スロットの Oracle ILOM ターゲットです。次に例を示します。

```
faultmgmt sp> fmadm repair /SYS/CMU8/CMP0/D00000
```

/SYS/FOPNL0 の FRU 情報を出力できない (16291774)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle Solaris プロンプトから `ipmitool fru print` コマンドをフロントパネル (/SYS/FOPNL0) に使用すると失敗し、コマンドが次のメッセージで終了します。

```
% ipmitool -H hostname -U user fru print front_panel_locator_ID
Password: pawword
FRU Device Description : /CH0_FPML (LUN 3, ID 17)
Unknown FRU header version 0x00
Get SDR 007f command failed
Get SDR 007f command failed
SDR record id 0x007f: invalid length 0
```

すべての FRU 情報を出力しようとする、コマンドはフロントパネルの情報の表示を試みるところまで進み、その時点で失敗して終了します。

回避方法: `ipmitool` コマンドを使用してフロントパネルの FRU 情報を出力するための回避方法はありません。ほかのコンポーネントの FRU 情報は、コンポーネントのロケータ ID を `ipmitool fru print` コマンドに追加することによって出力できます。次に例を示します。

```
% ipmitool -H hostname -U user fru print 0x30
```

コンポーネントのロケータ ID は `ipmitool sdr list fru` コマンドで一覧表示できます。次に例を示します。

```
% ipmitool -H hostname -U user sdr list fru
...
/SYSID0          | Log FRU @30h 19.0 | ok
...
```

コンポーネントのロケータ ID は、@ 記号と h の間にある数値です。この例では、ロケータ ID は 30 です。

SPP のサポートされていないページへのリンクを削除する (16287294)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

SPP の Oracle ILOM Web インタフェースの機能には、サポートされていないものがあります。

- システムログ – ログには、SPP で発生したイベントが表示されますが、イベントは、特定の PDomain に対する SPP の割り当てとは関連付けられていません。
- ホスト管理 – サポートされている機能はありません。
- **Oracle ILOM 管理** – 完全に機能するのは、「Connectivity」->「Network and User Management」->「Active Sessions」ペインだけです。

回避方法: アクティブ SP の Web インタフェースを使用します。

アクティブ SP で KVMS ホストロック設定が正しく表示されない (16287241)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

アクティブ SP の Oracle ILOM Web インタフェースを使用している場合、「Remote Control」->「KVMS settings」ページの「Host Lock Settings」が正しくロードされず、実際の構成を反映していないことがあります。

回避方法: Oracle ILOM CLI インタフェースを使用して、KVMS ホストロック構成の設定を `/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/SP/services/kvms` ターゲットによって管理します。このターゲットから、次のプロパティを設定できます。

- `custom_lock_key`
- `custom_lock_modifiers`
- `lockmode`
- `servicestate`

アクティブ SP で `ipmitool` 電源コマンドが動作しない (16270561)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

現時点では、アクティブ SP で `ipmitool power action` コマンドはサポートされていません。影響を受けるコマンドアクションは次のとおりです。

```
ipmitool power status|on|off|cycle|reset|diag|soft
```

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

同じ名前を持つ複数の論理ドメイン構成ファイルが存在する場合、Oracle ILOM が混乱する (16239544)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle Solaris で論理ドメイン (ldmd) 構成を作成し、大文字小文字の区別される名前を付けて保存できます。たとえば、Alpha と alpha は異なる名前なので、同じ語を使用する別個の構成ファイルが存在する可能性があります。

ただし、Oracle ILOM ユーザーインタフェース (CLI、Web、SNMP、IPMI) では、大文字と小文字が保持されるが区別はされないため、Alpha と alpha のような名前は同じものと見なされます。

重複した名前が存在する場合、次のアクションによって Oracle ILOM インタフェースがハングアップします。

- `show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/domain/configs` コマンドを入力する。
- `dataset` パラメータを `normal` または `full` に設定して Oracle ILOM スナップショットを作成する。
- Web インタフェースから「Host Management」->「Host Domain」を起動する。

システムがハングアップすると、Oracle ILOM のどのインタフェースを使用しても Oracle ILOM と対話できなくなります。ほかの既存セッションもすべてハングアップします。

回避方法: Oracle Solaris 制御ドメインに移動し、`ldm` コマンドを入力して、該当する `ldmd` 構成の 1 つを削除します。インタフェースのハングアップが Oracle ILOM インフラストラクチャーで検出されるまで少なくとも 30 分待ち、Oracle ILOM インタフェースサービスを再起動します。

全点灯 (ALO) テストが機能しない (16239056)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

ロケータボタンを 5 秒以内に 3 回押すと、LED の全点灯テストが呼び出され、すべての LED が 15 秒間点灯します。ALO テストはすべての LED の機能を確認します。現時点では、ALO テストは使用できません。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

標高に基づくセンサーしきい値の動的変更とフェイルオーバー (16238150)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

より標高の高い場所に対するバイアスを設定するための標高温度バイアスは壊れています。したがって、システムのシャットダウンしきい値と表示される /SYS/T_AMB しきい値が一致しない場合があります。そのため、より標高の高い場所で稼働しているサーバーは、表示されるしきい値より低い温度でシャットダウンすることがあります。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

ロケータボタンを押すと緑色の OK LED が低速の点滅から高速の点滅に変わる (16224893)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

OK LED とロケータ LED は、どちらの LED が先に点灯したかによって、相互に動作に影響を与えます。

- 最初の PDomain のブート中に位置特定 LED が点灯している場合、OK LED は位置特定 LED の点滅速度に合わせて高速で点滅します。
- 最初の PDomain の起動時に位置特定 LED が点灯している場合、位置特定 LED は OK LED の点滅速度に合わせて低速で点滅します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

set /System action で「Internal error」が表示される (16218833)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle ILOM /System ターゲットの action プロパティを設定して、すべてのドメインの電源投入、電源切断、またはリセットを行います。この時点で、action プロパティを設定するためのコマンドを入力すると失敗し、「set:Internal error」というメッセージが表示されます。

回避方法: この表は、実行するアクティビティと、正常に完了する Oracle ILOM コマンドの一覧です。

アクティビティ	コマンド
すべてのドメインの電源を投入します。	start /System
すべてのドメインの電源を切断します。	stop /System
すべてのドメインをリセットします。	reset /System
すべてのドメインの電源を強制的に投入します。	start -f /System
すべてのドメインの電源を強制的に切断します。	stop -f /System
すべてのドメインを強制的にリセットします。	reset -f /System

Oracle ILOM の電力上限機能は、調整更新を /sys/vps の更新と同期させる必要がある (16205895)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

各 PDomain で、電力上限機能が /SYS/VPS 消費電力センサーをモニターし、電力制限を超えないように CPU 周波数を調整します。センサーのポーリングと電力調整は数秒ごとに行われます。ただし、センサーの値は 20 秒から 30 秒ごとに更新されます。このようなタイミングの違いにより、電力上限機能が CPU 周波数を不必要に調整するため、消費電力とパフォーマンスに変動が生じます。

回避方法: 電力上限機能を無効にします。

1. Oracle ILOM プロンプトから、次のように入力します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_X/SP/powermgmt/budget
activation_state=disabled
```

ここで、*x* は PDomain の番号 (0 - 3) です。

2. すべての PDomain について、手順 1 を繰り返します。

autorunonerror=none の場合、start -f / Servers/PDomains/PDomain_X/HOST の電源投入失 敗から回復できない (16187909)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

ホストの autorunonerror プロパティが none に設定されている場合で、-f オプションを使用してそのホストの電源を投入するときに、そのホストに割り当てられているいずれかのボードに正常に電源が投入されない状況を考えてみます。ホストのコンソール上またはそのホストの status_detail プロパティ内に、あるいはステータス履歴ログの最後のエントリとして、次のメッセージが表示されることがあります。

```
ERROR HALT: Type 'stop -f /HOST<x>' when ready to power off host
```

このメッセージの指示どおりに、または Web インタフェースから、ホストを停止しようとしても機能せず、次のメッセージが表示されます。

```
stop: Target shutdown in progress.
```

電源投入コマンドを繰り返すと、次のエラーメッセージで失敗します。

```
start: Operation not allowed while start host is in progress
```

回避方法: 唯一の回復方法は、アクティブ SP をリブートすることです。

将来この状況を回避するには:

- autorunonerror プロパティの値を powercycle または poweroff に設定します。
- start /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST コマンドに -f オプションを使用しないでください。

注記 - `autorunonerror=none` を設定すること、および `start /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST` コマンドに `-f` オプションを使用することは、Oracle サービスの指示の下でのみ行うようにしてください。

ハイパーバイザは、PCIe ホットプラグによって追加されたカードの PCIe 情報を Oracle ILOM に通知する必要がある (16081398)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

ハイパーバイザが PCIe カードの情報を検出して Oracle ILOM に送信するのは、ホストのブート中のみです。ホットプラグ操作によって I/O カードが追加された場合、Oracle ILOM の CLI および Web インタフェースでは、カードは存在していると表示されますが、正確なカード情報は報告されません。データがまったく報告されないか、古いデータが報告されます。

回避方法: すべての PCIe カードが追加されたあとでホストをリブートします。

ファームウェアのアップグレード後に空の `fault.replay` イベントが `memlink-failover`、`c2c-lane-fail` で表示される (16081138)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

SP のリポート後に、以前に障害が発生したコンポーネントの障害クラスとして `fault.fruid.replay` が表示されていることがあります。場合によっては、一般にレーンフェイルオーバー状況の結果として、リソースフィールドが空になることがあります。次に例を示します。

```
Fault class : fault.fruid.replay
Affects    :
Location   : /SYS/CMU9
```

回避方法: `fault.fruid.replay` イベントに関連するコンポーネントを修復します。

/conf/webgo.conf は SPP にレプリケートされる必要がある (16063607)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

PDomain-SPP はその Oracle ILOM Web インタフェース構成の設定をアクティブ SP から継承します。PDomain-SPP の Web インタフェースをアクティブ SP の Web インタフェースから独立して構成することはできません。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

読み取り障害時にハイパーバイザがデバイスタイプを誤って読み取るため、親バスが検出されない (16062459)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

非常にまれに、ドメインのブート後に一部の PCI デバイスにアクセスできなくなることがあります。

回避方法: ドメインをリブートします。

/Servers/.../SP/powermgmt/powerconf/ の下に PSU と SP が一覧表示されない (16059956)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

電源装置および SP の電源ターゲットは /SP/powermgmt/powerconf Oracle ILOM ターゲットから取得できません。

回避方法: /SYS レガシターゲットを使用して、電源装置の実際の入力電力と出力電力を取得します。

- 電源装置の入力電力を取得するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/PSUx/IN_POWER value
```

ここで、_x は 0 - 11 です。

- 電源装置の出力電力を取得するには、次のように入力します。

```
-> show /SYS/PSUx/OUT_POWER/ value
```

ここで、_x は 0 - 11 です。

注記 - SP については電力情報は取得できません。

SSB プログラミングが完了したあとの、障害のある SSB のシステムエラー処理 (16019636)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

まれに、SSB 上のスイッチ ASIC で致命的な内部エラーが発生した場合、動作可能なホストがすべて再起動されます。障害のある SSB は、ホストの再起動の一環としてシステムから構成解除されるように想定されています。しかし、再起動シーケンスの制御フローは、障害管理システムと十分に調整されていません。そのため、障害のある SSB を引き続き使用する構成でホストが再起動し、別の機能停止を招く可能性があります。

回避方法: 障害のある SSB を交換します。ただちに交換できない場合は、SSB を無効にします。

1. `show faulty` コマンドを使用して、どの SSB に障害が発生したかを特定します。

障害のある SSB は `fru` フィールドに示されます。次に例を示します。

```
-> show faulty
```

Target	Property	Value
/SP/faultmgmt/0	fru	/SYS/SSB10/SA
/SP/faultmgmt/0/faults/0	class	fault.asic.switch.gchip-uc
.		
.		

2. 拡張可能として構成され、現在稼働しているすべてのホストを停止します。

- a. ホストが拡張可能で稼働しているかどうかを判定します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST expandable
status
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
```

```
Properties:
```

```
expandable = true
```

```
status = Solaris running
```

- b. 両方の条件を満たしているホストを停止します。

```
-> stop /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST
```

- c. ホストが停止したことを確認します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST status
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_0/HOST
```

```
Properties:
```

```
status = Powered Off
```

- d. すべてのホストについて、手順 a 以降を繰り返します。

3. 障害のある SSB を無効にします。

次に例を示します。

```
-> set /SYS/SSB10 requested_config_state=Disabled
```

4. 停止しておいたすべてのホストを再起動します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST
```

5. 停止したすべてのホストについて、手順 4 を繰り返します。

6. SSB が無効になっていることを検証します。

次に例を示します。

```
-> show /SYS/SSB10 current_config_state
```

```
/SYS/SSB10
```

```
Properties:
```

```
current_config_state = Disabled
```

電源装置で電圧低下が断続的に検出される (16018902)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

電源装置は入力 AC 電圧をモニターする機能を備えています。入力電圧が許容レベルより低くなると、Oracle ILOM は電圧低下が発生したことを通知するために障害イベントを生成します。この障害は `fault.chassis.env.power.loss` として識別されます。

まれに、電源装置が入力電圧低下の発生を誤って報告することがありますが、サーバーの稼働が影響を受けたことはありません。

回避方法: サーバーへの AC 電源が途絶えているという別の外部兆候がない場合、障害レポートは誤りであったと見なすことができます。この同じレポートが同じシステムから複数発生した場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

Oracle ILOM がアドイン PCI カードデータをハイパーバイザに再送信するように要求する (15936115)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

ホストの電源投入中に、ブートシーケンスを実行中の Oracle ILOM にホストが I/O カード情報を通知する場合、I/O カード情報が Oracle ILOM 内で更新されないことがあります。そのため、Oracle ILOM にはカードに関するデータがまったくないか、以前のカードのデータが残ります。

ほかのサーバーとは異なり、M5-32 サーバーシャーシの電源が切断されたときにデータはクリアされません。データは、ホストがブートして新しい情報を Oracle ILOM に送信するまで残ります。

次の場合にはホストをブートしないようにすると、この問題を回避できます。

- アクティブ SP のフェイルオーバー操作の実行中
- ファームウェアイメージの更新中 (Oracle ILOM load コマンド)
- ほかの SP 保守の実行中

Oracle ILOM から報告されるカード情報が正しいかどうかを検証できます。

1. 問題の I/O カードの Oracle ILOM プロパティを表示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/System/PCI_Devices/Add-on/
Device_y
```

ここでは:

- *x* は I/O カードが配置されている PDomain の番号です。
- *y* はその PDomain における I/O カードのデバイス番号です。

次に例を示します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_0/System/PCI_Devices/Add-on/
Device_25
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_1/System/PCI_Devices/Add-on/Device_25
```

Targets:

Properties:

```
part_number = SG-XPCIE2FC-QF8-Z
description = Sun StorageTek Dual 8 Gb Fibre Channel PCIe HBA
location = IOU1/PCIE9 (IO Unit 1 PCIe Slot 9)
pci_vendor_id = 0x1077
pci_device_id = 0x2532
pci_subvendor_id = 0x1077
pci_subdevice_id = 0x0171
```

2. 問題の I/O カードに関して Oracle Solaris に保持されている情報を表示します。

```
# prtdiag | grep PCIEz
```

ここで、*z* は I/O カードの識別番号です。次に例を示します。

```
# prtdiag | grep PCIE9
```

```
/SYS/IOU1/PCIE9      PCIE      SUNW,qlc-pciex1077,2532      QLE2562      --
```

文字列 `pciex` の直後に 2 つの番号が表示されます。最初の番号は `pci_vendor_id`、2 番目の番号は `pci_device_id` です。

3. 手順 1 の情報と手順 2 の情報を比較して、正確かどうかを確認します。

回避方法: 誤った I/O カード情報を Oracle ILOM から削除する方法は 2 つあります。

- 古い I/O カード情報だけをクリアするには、カードスロットの電源を切断し、そのスロットの LP キャリアを取り外して交換してから、カードスロットの電源を投入します。
- 古い、または存在しない I/O カード情報を正しい情報で上書きするには、Oracle ILOM が SP のフェイルオーバーやファームウェアの更新を実行していないことを確認し、ホストの電源を切って入れ直します。ホストがブートすると正しい I/O カード情報が書き込まれます。

start /Servers/PDomains/PDomain_0/HOST で障害が報告されるが、ホストは正常にブートする (15834247)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

状況によっては、start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST コマンドが成功したにもかかわらず、障害を報告することがあります。

回避方法: /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console/history ターゲットを使用してブートプロセスの進捗を表示します。

/SYS/SP0 のホットリムーブ中に SYSID0 デバイスが削除される (15826549)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

SP1 がアクティブ SP で、SP0 がスタンバイ SP である状況を考えてみます。SP0 の電源が SP1 によって切断されると、SP0 のホットリムーブイベントに加えて SYSID0 ボードのホットリムーブイベントが報告されます。また、SYSID0 ボードが SP1 のインベントリから消えます。

次の例は SP1 からのものです。

```
-> stop /SYS/SP
stop: Target /SYS/SP0
-> show /SP/logs/event/list Class==Chassis Type==Action
```

Event ID	Date/Time	Class	Type	Severity
----------	-----------	-------	------	----------

```

-----
.
.
.
74968 Thu Nov 1 07:52:25 2012 Chassis Action majorHot removal
of /SYS/SYSID0
.
.
.
-> show /SYS/SYSID0
show: Invalid target /SYS/SYSID0
->

```

回避方法: 次の手順を SP1 上で実行します。

1. SP0 を物理的に交換します。
2. SP0 の電源を投入します。

```
-> start /SYS/SP0
```

3. SP0 がブートして Linux プロンプトが表示されるまで待ちます。
4. 次に実行する手順を決定します。
 - SP1 をアクティブ SP のままにするには、次のように入力します。

```
-> reset /SP
```

SP1 がリセットされ、SYSID0 ボードが SP1 のインベントリに現れます。

- SP0 をアクティブ SP にするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/redundancy initiate_failover_action=true
```

これで SP0 がアクティブ SP になり、SYSID0 ボードが SP0 のインベントリに現れます。

CLI で PDomain-SPP を設定しても gm に伝播されない (15823776)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

非常にまれに、/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST Oracle ILOM ターゲットの sp_name プロパティで識別される PDomain-SPP がその役割を実行していないことが

あります。この場合、ホストの起動はシステムコンソールに「Step 3 of 9」と表示された段階で失敗し、この問題を示す情報はこれだけです。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST (y/n)? y
-> start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
2013-04-03 16:35:58 SP> NOTICE: Check for usable CPUs in /SYS/DCU1
2013-04-03 16:35:58 SP> NOTICE: Apply configuration rules to /SYS/DCU1
2013-04-03 16:35:59 SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 1 of 9
2013-04-03 16:40:42 SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 2 of 9
2013-04-03 16:40:43 SP> NOTICE: Start Host in progress: Step 3 of 9
```

この時点で、ホストの起動プロセスはハングアップします。**#.** に続いて次のコマンドを入力すると、プロセスが停止したかどうかを検証できます。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST status
status_detail
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
  status = stopping
  status_detail = 20130403 09:40:48: Host status updated
->
```

回避方法: ホストの PDomain-SPP の変更を開始します。

1. 割り当てられているすべての DCU を削除します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST dcus_assigned =
""
Set 'dcus_assigned' to ''
->
```

ここで、*x* は問題の PDomain の番号です。

2. 60 秒待機します。
3. 構成されている PDomain-SPP がないことを検証します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
Properties:
  sp_name = none
->
```

4. PDomain に DCU を割り当て直します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST dcus_assigned = "/SYS/DCU0 /
SYS/DCU1 /SYS/DCU2"
```

```
Set 'dcus_assigned' to '/SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2'
```

```
->
```

5. 60 秒待機します。
6. PDomain に正しい PDomain-SPP が構成されていることを検証します。

```
-> show /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST sp_name
dcus_assigned
```

```
/Servers/PDomains/PDomain_x/HOST
```

```
Properties:
```

```
sp_name = /SYS/SPP0
```

```
dcus_assigned = /SYS/DCU0 /SYS/DCU1 /SYS/DCU2
```

```
->
```

7. PDomain-SPP と割り当てられている DCU を比較します。

この例では、PDomain-SPP は現在 SPP0 であり、PDomain に DCU0 が割り当てられているため、正しい構成になっています。あるいは、SPP1 または SPP2 でも正しい構成になります。

Oracle ILOM が物理キースイッチの Diag 位置または Service 位置を読み取らない (15816819)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

物理キースイッチを「Diag」位置または「Service」位置に設定しても、仮想キースイッチの位置または /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/diag Oracle ILOM ターゲットの mode プロパティの値 (ホスト診断モード) はオーバーライドされません。次に例を示します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_x/HOST/diag mode=off
```

この例のコマンドは、物理キースイッチの設定をオーバーライドして、ホスト診断モードをオフにします。そのため、ホストの電源投入時に POST が実行されるかどうかは、仮想キースイッチの位置またはホスト診断モードの設定によって決まります。

回避方法: 物理キースwitchの「Diag」位置または「Service」位置を信頼しないでください。代わりに、仮想キースwitchまたはホスト診断モードの設定を使用してください。次に例を示します。

```
-> set /Servers/PDomains/PDomain_X/HOST/diag mode=diag
```

Oracle ILOM ソフトウェアのインストール中に SP0 がプライマリブートストラップでハングアップ (15812783)

注記 - システムファームウェア 9.1.0 以降をインストールすると、この問題が解決します。

ファームウェアの更新後に、SP または SPP がリセットから復帰しないことがまれにあります。SP がリセット状態のままになっていることは、「Primary Bootstrap」というメッセージが表示されたあとにすべてのコンソールアクティビティが停止するときにわかります。SPP がリセット状態のままになっていることは、ほかのすべての SPP がリセットから復帰したあと、SPP がシステムに存在していると認識されないときにわかります。

影響を受けている SPP のほかの症状として、ホストの起動または停止ができないことや、アクティブ SP からコンソールセッションを開始できないことがあります。次に例を示します。

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST
```

```
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST (y/n)? y
start: Cannot perform the requested operation yet; please try again later.
->
```

```
-> start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST/console
```

```
Are you sure you want to start /Servers/PDomains/PDomain_1/HOST/console (y/n)? y
reconnecting to console...
reconnecting to console...
reconnecting to console...
...
```

影響を受けている SPP がインベントリに現れるが、SPP FRU プロパティがない場合もあります。次に例を示します。

```
-> show /SYS/SPP1 fru_part_number
```

```
show: No matching properties found.
->
```

回避方法: 問題となっている SP または SPP を再度リセットしたり、電源を切って入れ直したりすることで、動作を復元します。これを実行する方法は 3 つあります。

- 使用可能な SP がある場合は、Oracle ILOM にログインし、`reset -f /SYS/SPx` または `reset -f /SYS/SPPx` コマンドを入力します。ここで、*x* は適切な SP または SPP の番号です。
- Oracle ILOM にログインできない場合は、リセット状態のままになっている SP または SPP のホットプラグを実行します。
- 前述の方法が失敗する場合は、サーバーの電源を切って入れ直します。

コンポーネントのホットプラグ手順およびサーバーの電源再投入手順については、『*SPARC M5-32 および SPARC M6-32 サーバースerviceマニュアル*』を参照してください。

遅延転送が実行されなかった (15795683)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

SP のリブート中にサーバーでエラーが発生した場合、エラーの遠隔監視が失われることがあります。そのため対応するエラーの診断がないことがあります。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

Emulex rKVMS が SPARC クライアントからのストレージリダイレクションをサポートしていない (15795058)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle Solaris ベースのサーバーの Java リモートコンソールプラスからストレージ機能を起動することはサポートされていません。

回避方法: Linux または Windows ベースのサーバーの Java リモートコンソールプラスからストレージ機能を起動します。サポートされているブラウザとオペレーティングシステムの一覧については、『*Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド ファームウェアリリース 3.2.1*』の「Oracle ILOM でサポートされている Web ブラウザ」を参照してください。

解決される POST の問題 (FW 9.0.2)

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される POST の問題です。

- 130 ページの「POST 時に断続的な `fault.cpu.generic-sparc.core` 障害が発生する (16707144)」
- 130 ページの「`/SP/diag trigger` を複合値に設定できない (16211935)」
- 131 ページの「`COU1` の MBIST 障害の障害イベントが表示されない (16172211)」

POST 時に断続的な `fault.cpu.generic-sparc.core` 障害が発生する (16707144)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

大容量のメモリー構成のサーバーで、POST でメモリーデータが不適切に初期化された場合、POST メモリーテスト時に CPU エラートラップが連続ループすることがあります。その結果、システムフェーズ POST メモリーアドレステストがタイムアウトして、コアで障害が発生し、自動的な電源再投入が開始します。障害と電源再投入が組み合わさることによって、複数コアでのさらなる障害と以降の電源再投入が伝播することがあります。

障害は、ログファイルに記録される `fault.cpu.generic-sparc.core@core_target` によって識別されます (`core_target` は、障害が発生した特定コアへの IPMI パスです)。次に例を示します。

```
fault = fault.cpu.generic-sparc.core@/SYS/CMU4/CMP0/CORE0
```

回復方法: 障害をクリアし、POST を無効にしてからホストを再起動します。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。パッチが利用可能かどうかについては、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

`/SP/diag trigger` を複合値に設定できない (16211935)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

Oracle ILOM /SP/diag ターゲットの trigger プロパティを複合値に設定すると障害メッセージが発生します。次に例を示します。

```
-> set /SP/diag trigger="hw-change error-reset"  
set: Invalid property value
```

回避方法: trigger プロパティを all-resets に設定します。all-resets 値は複合値と同じレベルの粒度を提供しませんが、確実にすべてリセット状態で診断を実行するように構成します。

COU1 の MBIST 障害の障害イベントが表示されない (16172211)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

電源投入テストで CPU に問題のある構造が検出された場合、その CPU は構成解除され、障害レポートが生成されます。非常にまれに、障害レポートが生成されないことがあります。この場合、CPU を交換する必要があることを認識できません。また、動作可能な構成からその CPU がなくなります。

回避方法: 現時点では回避方法はありません。Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

解決される Oracle Solaris の問題 (FW 9.0.2)

次の問題が、SPARC M5-32 サーバーで、システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると解決される Oracle Solaris の問題です。

- [132 ページの「Oracle Solaris FMA \(fault または defect\).sunos.eft.unexpected_telemetry は診断されるべきではなかった \(15820471\)」](#)

Oracle Solaris FMA (fault または defect).sunos.eft.unexpected_telemetry は診断されるべきではなかった (15820471)

注記 - システムファームウェア 9.0.2 以降をインストールすると、この問題は解決します。

PCI デバイスで大量の訂正可能エラーが発生し、無効になることがあります。デバイスの処理エラーにより、Oracle Solaris 障害管理によってこれらのメッセージが表示されることがあります。

- `fault.sunos.eft.unexpected_telemetry`
- `defect.sunos.eft.unexpected_telemetry`

これらのメッセージは無視して構いません。

回避方法: ホストにログインし、Oracle Solaris 障害管理の障害の UUID を使用して、予期しない遠隔監視障害をクリアします。